

大阪府立大学 21世紀科学研究機構大阪検定客員研究員

平成26年度研究成果報告書

目次

はじめに

高木 昌之	菅原道真公がつなぐ、観光事業における大阪・神戸の協働の可能性	… 1
山田 重昭	住吉大社周辺観光まちづくりへの取り組み	… 5
湯川 敏男	蔵屋敷の神さん今どこに	… 9
石田 一雄	大阪市の定期観光バスを考える	… 13
藤井 里江	大阪城でつながろう！	… 17
行俊 良雄	碑を観光に活かすための提言	… 21
辻本 伊織	生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを	… 25
山本 伸一	大阪の淡路を巡る～名物に潜む淡路島～	… 29
中塚 義隆	西成レトロまちめぐり ー西成区の南東部を訪ねてー	… 33
西本 広光	鉄道で栄えた街『京橋』の観光活性	… 37
村田 幸雄	トンネル扁額で巡る大阪の鉄道史	… 41
吉田 真治	大学生・専門学校生等による大阪の都市魅力の向上その2	… 45

はじめに

「なにわなんでも大阪検定」を立ち上げるにあたって、私たちは、「大阪を再発見する機会の提供」「大阪を知り、愛する運動の推進」「大阪の都市ブランドの向上」「大阪を体験する機会の提供」という4項目の目的を設定しました。また他都市の検定とは趣向を違えて、検定の受験そのものが「楽しみ」となる「大阪らしい検定」を目指してきました。

2014年の第6回目試験の受験者数は2,684名（1級269名、2級734名、3級1,681名）、第1回からの受験者は21,886名、累計ついに2万人を越えました。大阪に対する市民の誇りを再確認する機会として、一定の役割を担う事業であると自負するゆえんです。

第6回試験の合格者は1,471名、内訳を見ると1級が7名、準1級が8名、2級が224名、3級が1232名でした。全体の合格率は54.8%ですが、最難関である1級は2.6%という狭き門でした。

最難関である1級の合格者は、延べで58名となりました。複数回、合格されている方もあるので、実数は47名の方が1級の保持者になります。

さて、「なにわなんでも大阪検定」では2013年度より、1級合格者のなかから選抜を行ない、私が所長を務める大阪府立大学21世紀科学研究機構・観光戦略研究所の客員研究員に迎えて、独自に研究活動をすすめていただくプログラムを用意致しました。1年間、大阪府立大学でゼミを実施、各員の問題意識のもとに大阪の地域文化を活かした広義のツーリズム振興策について、独自の研究を展開していただくものです。

本冊子は、2年度目となる2014年度の研究員に参加したメンバーの研究成果をとりまとめたものです。専門家による調査研究ではありませんので、学術的な水準は十分ではないでしょう。ただそれぞれの提案は、1級合格者の方らしく、なによりも大阪の歴史と文化を再評価しつつ、観光まちづくりに活かそうとするものです。

「なにわなんでも大阪検定」の成果物のひとつとして、評価いただければ幸いです。

大阪検定企画会議座長
大阪商工会議所都市活性化委員会副委員長
大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長
大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長
橋爪紳也

菅原道真公がつなぐ、観光事業における大阪・神戸の協働の可能性 ～「摂津菅公聖蹟二十五拝」考～

高木 昌之

【目的】

2019年（平成31年）「ラグビーワールドカップ2019」、2020年（平成32年）「東京オリンピック・パラリンピック」、2021年（平成33年）「関西ワールドマスターズゲームズ2021」と、関西、日本では、集客力のあるビッグイベントが目白押しである。

この好機に、関西全体を盛り上げ、観光客を関西に誘致するためにはどうすればよいのか、また、大阪検定客員研究員として、神戸学マイスター（神戸学検定上級合格者）としてできることは何かを考え、自ずと「観光事業における大阪・神戸の協働の可能性の追求」に思い至った次第である。

その実践手段を考える過程において、2020年（平成32年）に生誕1175年を迎える『菅公』こと『菅原道真公』に着目した。このキャラクターの強さをもってすれば、現代版巡礼を新たに創設し、公共交通機関の利用を前提とした新たな観光ルートとして提唱することが可能と考えたからである。

但し、関西全体を盛り上げるためには、大阪や神戸といった点ではなく、面での展開が必要である。かと言って、関西や近畿では広域過ぎる。そこで、両市を含み、かつ菅公の時代の行政区分でもあった「摂津国」を対象範囲とした。

こうして生まれた構想が「摂津菅公聖蹟二十五拝」である。

【内容】

大阪、神戸を含む「摂津国」に残る菅公伝説を基に45の候補（大阪府28箇所・兵庫県17箇所）を選び、現地調査を実施。これらの候補をそれぞれ点数で評価。菅公ゆかりの数字「25」にちなみ上位25箇所を「摂津菅公聖蹟二十五拝」として選定する。

【結果】

評価の結果、60点以上を獲得した候補地を「摂津菅公聖蹟二十五拝」として選定した。第一番から第一三番までの13箇所が大阪府、第一四番から第二五番までの12箇所が兵庫県となった。この結果を「摂津菅公聖蹟二十五拝」として提唱したい。

なお、今後の「摂津菅公聖蹟二十五拝」創設に向けた取り組みとしては、まず数回に分け“公共交通機関を使った街歩き”として試行実施すると共に、その間に創設主体を決定していく必要がある。但し、関西を盛り上げ、複数府県を巻き込んだ展開を期するためには、仕掛け人や単一の交通事業者のみによる創設ではなく、「京都・大阪・神戸“光と灯りの街めぐり”冬の三都ファンタジア」のような複数の交通事業者や地方公共団体を巻き込んだ枠組みを作ることを目指していかなければならない。

1. 「摂津菅公聖蹟二十五拝」構想について～菅原道真公である理由

2020年（平成32年）「東京オリンピック・パラリンピック」をはじめとして、関西、日本では、集客力のあるビッグイベントが目白押しである。

この好機を前に、観光事業における大阪・神戸の協働の可能性を追求するため、「摂津菅公聖蹟二十五拝」を構想した。

では、なぜ菅原道真公でなくてはならないのか。理由は5つある。

1つ目は、ビッグイベントの頂点となる2020年（平成32年）が生誕1175年に該当すること。ちなみに全国 的天満宮では25年ごとに式年祭が行われる。菅公が845年（承和12年）6月25日に生誕し、903年（延喜3年）2月25日に薨去したことから、「25」は天神ゆかりの数であり、多くの天満宮の祭日は25日に行われている。

2つ目は、菅公が、872年（貞観14年）に渤海使の応接を見事にこなしたこと。東京オリンピック・パラリンピック招致決定のIOC総会プレゼンテーションで一躍有名になった「おもてなし」の原点がここにあるとも言える。

3つ目は、菅公が、日本三大祭のひとつで大阪を代表するお祭である「天神祭」の主演であること。

4つ目は、菅公が、「天神様＝学問の神様」として崇められ、他の神仏と違い、受験生を中心とした若者からも強く支持され、幅広い年齢層に受け入れやすいこと。

5つ目は、菅公が京都から大宰府に左遷された経路上に「摂津国」があるため、大阪、神戸に多くの遺蹟が存在すること。

2. ルートの設定と選定のルール

(1) 菅原道真公がつなぐ既存ルート

現在行われているものとしては、「阪急沿線合格祈願三天神めぐり」（大阪・京都）、「名古屋三天神参り」（愛知）がある。

また、江戸期から戦前にかけては、「菅公聖蹟二十五拝」（京都～福岡）、「洛陽天満宮二十五拝」（京都）、「金沢二十五天神巡拝」（石川）、東都二十五天神（東京）などもあった。大阪でも「大阪天神二十五拝」と称されるものが存在した。

(2) 「摂津菅公聖蹟二十五拝」選定のルール

これらの既存ルートを参考に、「摂津菅公聖蹟二十五拝」の選定を行った。

「菅公聖蹟」である以上、少なくとも菅公伝説が残る地でなければならない。まず、参考文献等から摂津国内にある該当地45箇所を「菅公聖蹟」候補としてピックアップした。

続いて、これらの候補地の現地調査を行い、総合的な評価を行った。客観性を保つため点数化し5部門計100点満点で評価した。その上で、菅公ゆかりの数字にちなみその上位25箇所を「摂津菅公聖蹟二十五拝」として選定した。

なお、評価方法の詳細は下記のとおりである。

① 伝説：40点満点

伝説の内容を評価。菅公本人の話ではない、現所在地の話ではない等であれば減点した。

② 案内：20点満点

現地に伝説についての案内板があるかどうかを評価。但し、案内板があっても由緒書きを掲示しただけ、判読不能等の場合は減点。

③ 遺蹟：20点満点

「聖蹟」である以上、遺蹟がある方が巡拝者に対する説得力が増す。その遺蹟自体に伝説が伴えば評価はより高くなる。

④ 規模：10点満点

観光対象として、その規模を単純に評価。

⑤ 有人：10点満点

授与品の購入や朱印、案内等の参拝者の利便を考慮し、有人であるかどうかを評価。常駐に近いほど評価は高くなる。

3. 選定結果

選定結果とその根拠となった評価点は、下記の通りである。

巡拝順	巡拝先	所在地	評価点 ()内は満点					
			伝説 (40)	案内 (20)	遺蹟 (20)	規模 (10)	有人 (10)	合計 (100)
1	おおさかてんまんぐう 大阪天満宮	大阪市北区天神橋 2-1-8	40	20	15	10	10	95
2	ほうしゅいん 宝珠院	大阪市北区与力町 1-2	40	10	0	5	8	63
3	つゆのてんじんしゃ (はつてんじん) 露天神社 (お初天神)	大阪市北区曾根崎 2-5-4	40	20	0	8	10	78
4	ふくしまてんまんぐう 福島天満宮	大阪市福島区福島 2-8-1	40	15	0	6	10	71
5	てんじんしゃ 天神社	大阪市福島区玉川 1-4-5	40	15	0	5	4	64
6	すわじんしゃ 諏訪神社	大阪市城東区諏訪 2-15-16	40	20	20	6	2	88
7	てんねんじ 天然寺	大阪市天王寺区城南寺町 4-5	40	20	10	6	4	80
8	やすいじんしゃ 安居神社	大阪市天王寺区逢坂 1-3-24	40	20	7	6	10	83
9	てんまんぐう (てんじんの もりてんまんぐう) 天満宮 (天神ノ森天満宮)	大阪市西成区岸里東 2-3-19	40	20	0	7	8	75
10	まつやまじんしゃ 松山神社	大阪市東淀川区小松 4-15-38	40	20	5	9	10	84
11	てんまんぐう たなかてんまんぐう 天満宮 (田中天満宮)	茨木市田中町 7-37	40	15	0	6	3	64
12	じょうぐうてんまんぐう 上宮天満宮	高槻市天神町 1-15-5	30	20	0	9	10	69
13	はっとりてんじんぐう 服部天神宮	豊中市服部元町 1-2-17	40	20	15	9	10	94
14	ひじおかてんまんぐう 臂岡天満宮	伊丹市鑄物師 1-104	40	20	0	7	6	73
15	てんまんじんしゃ (ながすてんまんぐう) 天満神社 (長洲天満宮)	尼崎市長洲本通 3-5-1	40	20	20	6	3	89
16	あまがきえびすじんしゃ 尼崎戎神社	尼崎市神田中通 3-82	30	20	0	8	10	68
17	まつばらじんしゃ 松原神社	西宮市松原町 2-23	30	20	5	7	9	71
18	つなしきてんまんじんしゃ おたびしょ 綱敷天満神社御旅所	神戸市東灘区御影石町 2-6-5	30	20	10	4	0	64
19	つなしきてんまんじんしゃ 綱敷天満神社	神戸市東灘区御影 1-22-25	40	5	0	7	9	61
20	かわちのくにたまじんしゃ (ごもうてんじん) 河内国魂神社 (五毛天神)	神戸市灘区国玉通 3-6-5	40	0	10	7	9	66
21	やなぎはらてんじんしゃ 柳原天神社	神戸市兵庫区東柳原町 1-12	30	20	0	6	4	60
22	かんこうにお うめ 菅公匂いの梅	神戸市長田区東尻池町 1-6-14	40	20	20	4	0	84
23	いたやどはちまんじんしゃ 板宿八幡神社	神戸市須磨区板宿町 3-15-26	40	20	20	7	9	96
24	すが い 菅の井	神戸市須磨区天神町 5-2	40	20	20	5	0	85
25	つなしきてんまんぐう 綱敷天満宮	神戸市須磨区天神町 2-1-11	40	20	20	8	10	98

【番外】(17箇所) <<数字は評価点合計>>

綱敷天神社御旅社[大阪市北区]52点、綱敷天神社[大阪市北区]48点、太融寺[大阪市北区]29点、福島天満宮中の天神跡地[大阪市福島区]26点、梅旧禅院[大阪市天王寺区]13点、四天王寺[大阪市天王寺区]30点、住吉大社[大阪市住吉区]30点、愛宕神社[大阪市東淀川区]33点、菅原天満宮[大阪市東淀川区]44点、三本松天神社跡[摂津市]42点、子安天満宮[高槻市]55点、春日神社[高槻市]51点、菅公船繋ぎの松[尼崎市]31点、西念寺[大阪市此花区]51点、津門神社[西宮市]59点、海蔵寺[神戸市灘区]19点、満福寺[神戸市兵庫区]39点

※ 生根神社[大阪市住吉区]、淀川天神社[大阪市北区]、北野天満神社[神戸市中央区]の3箇所については、現地調査まで行ったものの、菅公伝説は確認できなかった。

4. 巡拝モデルルート

モデルルートとしては、具体的には下記のイメージになる。およそ3日間の行程である。

【1日目】(大阪市)

大阪市地下鉄線南森町駅またはJR線大阪天満宮駅—徒歩3分—**第1番 大阪天満宮**—徒歩5分—**第2番 宝珠院**—徒歩5分—南森町駅—大阪市地下鉄線2分—東梅田駅—徒歩3分—**第3番 露天神社(お初天神)**—徒歩5分—北新地駅—JR線2分—新福島駅—徒歩3分—**第4番 福島天満宮**—徒歩14分—**第5番 天神社**—徒歩8分—中之島駅—京阪線10分—京橋駅—JR線4分—放出駅—徒歩8分—**第6番 諏訪神社**—徒歩17分—深江橋駅—大阪市地下鉄線6分—谷町六丁目駅—徒歩11分—**第7番 天然寺**—徒歩11分—谷町六丁目駅—大阪市地下鉄線3分—四天王寺前夕陽ヶ丘駅—徒歩12分—**第8番 安居神社**—徒歩9分—恵美須町駅—阪堺線7分—天神ノ森駅—徒歩1分—**第9番 天満宮(天神ノ森天満宮)**—徒歩1分—天神ノ森駅—阪堺線9分—恵美須町駅—大阪市地下鉄線・阪急線20分—上新庄駅—徒歩12分—**第10番 松山神社**—徒歩12分—上新庄駅

【2日目】(茨木市・高槻市・豊中市・伊丹市・尼崎市・西宮市)

上新庄駅—阪急線14分—茨木市駅—徒歩23分—**第11番 天満宮(田中天満宮)**—徒歩25分—茨木市駅—JR線7分—高槻駅—徒歩7分—**第12番 上宮天満宮**—徒歩14分—高槻市駅—阪急線37分—服部天神駅—徒歩3分—**第13番 服部天神宮**—徒歩3分—服部天神駅—阪急線20分—阪急伊丹駅—徒歩11分—伊丹市バス11分—体育館・市民プール前—徒歩8分—**第14番 臂岡天満宮**—徒歩19分—北伊丹駅—JR線11分—尼崎駅—徒歩14分—**第15番 天満神社(長洲天満宮)**—徒歩19分—大物駅—阪神線1分—阪神尼崎駅—徒歩5分—**第16番 尼崎戎神社**—徒歩5分—阪神尼崎駅—阪神線13分—阪神西宮駅—徒歩8分—**第17番 松原神社**—徒歩8分—阪神西宮駅

【3日目】(神戸市)

阪神西宮駅—阪神線16分—石屋川駅—徒歩7分—**第18番 網敷天満神社御旅所**—徒歩18分—**第19番 網敷天満神社**—徒歩17分—JR六甲道駅—神戸市バス16分—五毛天神—徒歩1分—**第20番 河内国魂神社(五毛天神)**—徒歩1分—五毛天神—神戸市バス18分—地下鉄三宮駅前／三ノ宮駅—JR線6分—兵庫駅—徒歩7分—**第21番 柳原天神社**—徒歩23分—**第22番 菅公匂いの梅**—徒歩17分—新長田駅—神戸市地下鉄線2分—板宿駅—徒歩15分—**第23番 板宿八幡神社**—徒歩13分—板宿駅—山陽電鉄線5分—須磨寺駅—徒歩3分—**第24番 菅の井**—徒歩7分—**第25番 網敷天満宮**—徒歩12分—山陽電鉄線須磨駅またはJR線須磨駅



25 : 巡拝順

(Yahoo Japan! 地図より)

◆参考文献等

神社と神道研究会編(2004)『菅原道真事典』勉誠出版、坂本太郎著(1962)『菅原道真』吉川弘文館、三善貞司編(1986)『大阪史蹟辞典』清文堂出版、三善貞司編(2005)『東淀川歴史探訪』東淀川区コミュニティ協会、柴谷宗叔(2008)『写し霊場と新規霊場開設の実態について』『密教文化第221号』、梅原達治(1989)『松浦武四郎「聖跡二十五霊社巡拝双六」』『リベラル・アーツ』札幌大学教養部教育研究、「梅旧院光明殿Web」、「摂津市Web」、「兵庫歴史博物館Web」、「神戸市兵庫区Web」、各社寺等案内板・由緒書等

住吉大社周辺観光まちづくりへの取り組み

山田 重昭

【目的】

コミュニティ発の観光まちづくりの推進による来街者のアップを図り、地域資源の魅力増進、及び地域産業への寄与を目指す

【内容】

前年度報告における提言内容を踏まえた取組事例の報告

1. 粉浜サポーター
2. 第3回大阪ちん電バル
3. キャンドルナイト in 住吉公園
4. 「マッサン」関連（まち歩き、語りべ活動など）

【結果】

1. コミュニティ・ベースドな体制作りの必要性
2. 提案
 - ・アメニティの充実
 - まち歩きマップの配布、観光案内所の設置、遊歩優先の交通規制、サイン・トイレ・休憩所の設置、レンタサイクル
 - ・都市空間の活用（住吉大社～住吉公園）
 - 石灯籠の点灯、公園内でのオープンカフェやライブ・パフォーマンス
 - ・インバウンドへの対応

(承前)住吉界隈の地域ポテンシャル

- 1.交通の要所
- 2.エリアの多様性
- 3.ネタの宝庫
- 4.地域間ネットワークのハブ



(承前)観光振興への提言

- 1.アメニティの充実
- 2.親和性を育むイベント
- 3.コミュニティ・ベースドな体制作り
- 4.エリアネットワークの構築



取組事例

事例	内容	キーワード
第3回大阪ちん電バル	阪堺沿線の飲食店を中心にした飲み歩き・食べ歩きイベント	地元店舗の再発見 夜のにぎわいづくり 沿線ネットワークの形成 地域住民主体の活動 親和性を育むイベント
キャンドルナイト住吉公園	大阪ちん電バル・住吉大社親月祭とも連動した光空間の演出	夜のにぎわいづくり 公共空間の活用とエリアコラボレーション 親和性を育むイベント
粉浜サポーター	商店街を中心に、住吉大社社頭である粉浜界隈を盛り上げようとする地域活動	コミュニティ・ベースドな活動 商業活性化
「マッサン」効果	NHK朝ドラ関連の各種イベント	メディアミックスによる地元住民への意識づけ

第3回大阪ちん電バル

9月6日(土)～8日(月)

開催エリア:阪堺電車
北畠・塚西
～我孫子道沿線

参加店舗:41店
参加人数:720人



キャンドルナイトin住吉公園



粉浜サポーター



ミニコミ誌



サポーター展



まち歩き

「マッサン」効果



語りべ活動

『「マッサン」と帝塚山開発物語』



まち歩き



「竹鶴政孝とリタ展」

活動を通じて見えてきた課題

イベントやブームが一過性に終わる危険

- ・老舗店舗の閉店が相次ぎ、門前の寂れようが深刻化、夜間は危険な水位に
- ・「マッサン」→地元を巻き込んだ活動には繋がっていない

区境の存在が地域一体となった取り組みを困難にしている

危機意識が地元住民の間でも広がってきている

あらためて観光まちづくりについて考える

- 目的 まちのにぎわいづくり(産業活性、生活空間)
 特徴 ・まちの魅力(固有の資源)を売る
 ・持続可能なものであること



つまり

「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」

行政頼みではない、内発的・自立的な体制であること
 (コミュニティ・ベースド)

すみよしアメニティプラン

キーワード

- ・都市空間の活用 ・回遊性 ・和をモチーフ

テーマ	ねらい	方策
遊歩	遊歩空間を確保	古道+商店街+間を繋ぐ主要道をメインとした重点区間の整備
	歴史・伝統を感じさせる路面	石畳風、電線地中化
	まち歩きを楽しむための環境	サイン、車両通行規制
	アメニティ空間(トイレ、休憩所、情報ステーション)の確保	観光案内所、公園、沿道店舗の協力
	情報・おもてなし	まち歩きマップの作製・配布 まち歩きガイドの常駐、ツアーの実施

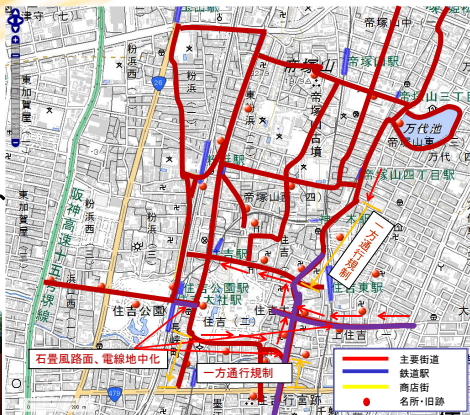
テーマ	ねらい	方策
自転車周遊	利便性、サイクルツーリズムの促進	ルートの整備、サイン サイクルマップ レンタサイクル
	走行環境の整備	幹線(南港通り、R26、長居公園通り)に自転車レーン設置
	域内及び周辺エリアとのネットワーク	サイクルステーションの設置 (自転車店の活用も含む)
交通	乗継時のストレスフリー 周遊促進	南海・阪堺・地下鉄 隣接駅の同一駅扱い、乗継割引、フリーチケット
	エリア内外の移動手段のメリハリ	バス駐車場とパーク&ライドの導入
空間演出	都市空間全体をにぎわいの場に	汐掛路オープンカフェ ちん電のまち
	夜のにぎわいづくり	光の道(住吉公園~住吉大社を一体化)

旧街道を活かして、まちの「らしさ」を追求

まちを回遊するしくみづくり

遊歩空間の整備 ～まち歩き促進～

1. 重点ルート
の設定
2. 石畳風路面化、
電線地中化
3. 車両の
通行規制



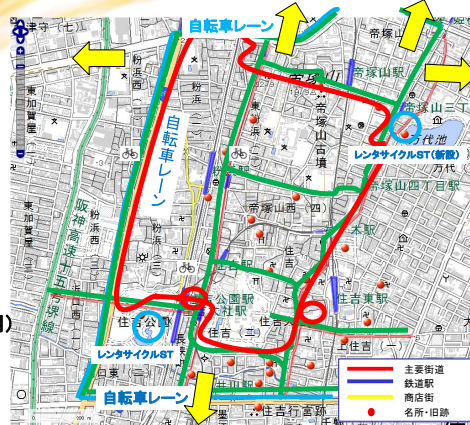
遊歩空間の整備 ～まち歩き促進～

1. サイン
2. 施設
 - ① 観光案内所
 - ② トイレ、公園
 - ③ 「すみよし茶屋」
3. おもてなし
マップ、ガイド



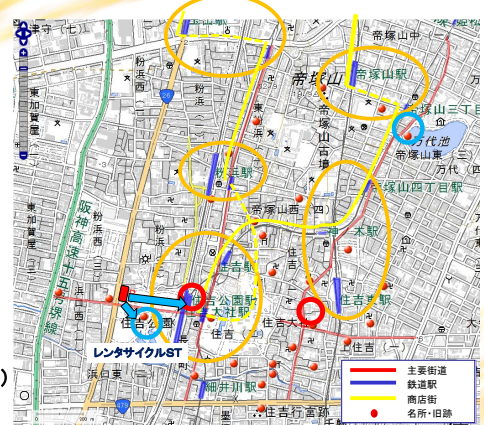
自転車周遊 ～サイクル・ツーリズムの促進～

- ・ルートの整備
- ・自転車レーン
- ・レンタサイクル
- ・サイクル
ステーション
(自転車店を活用)
- ・エリア
ネットワーク



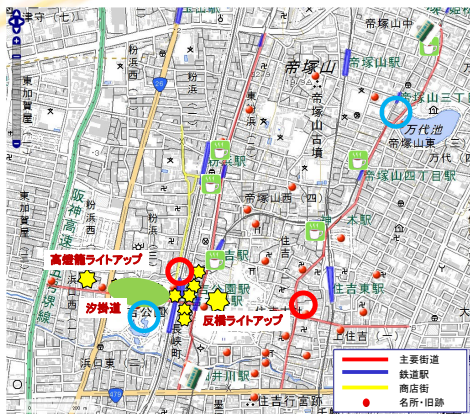
交通

- ① 鉄道
 - 南海⇄阪堺
 - ・隣接駅の
同一駅扱い
(ICカードを利用)
 - ・エリアフリー
チケット
 - 地下鉄⇄阪堺
 - ・乗り継ぎ割引
- ② 観光バス
 1. 駐車場設置
 2. 鉄道
レンタサイクル
(パーク&ライド)
 3. 割引・利用特典



空間演出

- ① 光の道
住吉公園
～住吉大社
の一体化
 - ② 汐掛路ストリート化
 - ・オープンカフェ
 - ・オーガニック
マーケット
 - ・ストリート
パフォーマンス
 - ③ 鉄道喫茶
- その他
～施設の常時開放
- ・高燈籠
 - ・帝塚山古墳



その他の検討項目

- ・第2商業ルートの復活(熊野街道側)
- ・宿泊施設(ゲストハウスなど)
- ・居住促進
- ・景観デザイン(歴史・モダン)
- ・包括的なエリア運営組織
- ・インバウンドへの対応
- ・トランジットモール

参考文献

宇都宮浄人[2012]『鉄道復権』新潮社
 大河直躬・三船康道編[2006]『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』学芸出版社
 古倉宗治[2010]『成功する自転車まちづくり』学芸出版社
 小長谷一之他[2012]『地域活性化戦略』晃洋書房
 高井典子・赤堀浩一郎[2014]『訪日観光の教科書』創成社
 茶谷幸治[2008]『まち歩きが観光を変える』学芸出版社
 茶谷幸治[2012]『「まち歩き」をしかける』学芸出版社
 宗田好史[2009]『創造都市のための観光振興』学芸出版社

蔵屋敷の神さん今どこに

湯川 敏男

【目的】

昨年度は、『蜷川の面影を訪ねて』と題し、堂島の北側を東西に流れていた、今は無き曾根崎川（通称「蜷(しじみ)川」）とそこに架かっていた十橋を取り上げ、江戸期から昭和中頃までの、その変遷の歴史をたどった。

今年度は、昨年度取り上げた堂島をはじめ中之島、天満などに存在した、江戸時代の大阪で「天下の台所」の一翼を担った諸藩の蔵屋敷の歴史を振り返り、庶民と諸藩との接点でもあった蔵屋敷の屋敷神の詳細およびその後をたどり、幾多の変遷にも耐え、今日に伝えられた屋敷神に想いを馳せ、江戸時代の隠れた歴史を偲ぶ観光コースを設定する。

【内容】

蔵屋敷の屋敷神としては、西区の大阪市立中央図書館の西、土佐公園横に立地する岩崎弥太郎が創始した三菱グループ発祥の地、元・土佐藩蔵屋敷内の「土佐稻荷神社」が良く知られている。しかし、他の屋敷神については、その存在はあまり知られていない。

そこで、今年度は、江戸時代から今日に伝えられた諸藩の蔵屋敷にあった稻荷、天神や国元より勧進した屋敷神を調べ、とりまとめることとした。

明治維新後の廃藩置県、神仏分離令、神社合祀令、地震・台風・水害・大火の災害、今次の戦災などで廃社し、今は無くなった屋敷神がほとんどで、辛うじて現在に伝えられた貴重な屋敷神は、最盛期125邸もあった蔵屋敷の中で、僅かに11座であった。

幸運にも、数は少ないが、現地やその付近に存続し続けた屋敷神は5座、新たな場所に移転された屋敷神が1座、他の神さんに合祀された屋敷神が2座、新たな地に遷座された屋敷神が3座伝えられている。

これら11座の屋敷神の探訪の手引きとして、コース、概要、見所、案内図などを、まとめたパンフレットを『蔵屋敷の神さん今どこに & 蔵屋敷の神さん今ここに』と称し、とりまとめ、作成した。最後に、取材にご協力いただいた各位に感謝申し上げる。

【結果（今後の考察含む）】

今年度は、『蔵屋敷の神さん今どこに』をテーマに研究を進めたが、研究を進めるに従い、江戸時代の大阪には、蔵屋敷の他にも、川崎東照宮、大坂城代、町奉行所、大名屋敷などに勧進された神々があり、現在も継承されているものや、仏様で同じく継承されているものが多々あることが判明した。また、蔵屋敷と天神、御霊、坐摩、生玉などの祭りや庶民との関わりなどを、今後さらに引き続き、研究をつづけていきたい。

1. 蔵屋敷とは

江戸時代の大阪は、物流、商業の中心地であった。後世の人々はこれを「天下の台所」と称した。

その要因の一つは、堂島米市場（米会所）にあったが、そこには、商品の“米”はなかった。米は実は、西国の諸大名が年貢米や特産物を換金するため大阪に設けた「蔵屋敷」内にあった。以下に蔵屋敷について、その設置場所、数の推移、役割の概要を記す。

(1) 蔵屋敷の場所

蔵屋敷は、大阪の他に江戸、敦賀、大津、堺、長崎などにも存在したが、大阪は、日本のほぼ中心に立地し、水運にも恵まれた土地柄であったことから、次々と蔵屋敷が設けられた。当初は、中之島に多く集まり、天満、土佐堀、江戸堀がこれに続いた。その後、河村瑞賢の蜷川改修や堂島米市場開設により、堂島にも蔵屋敷が設けられるようになった。

(2) 蔵屋敷の数の推移

諸藩の蔵屋敷の大阪への進出は、時期もまちまちで、時代によって場所を移動する藩、複数の蔵屋敷を持つ藩、同じ土地でもあっても、藩の入れ替わりが存在するなど、その数は、時代により変化し、明暦元年（1655年）に90邸、最盛期の天保14年（1843年）には125邸にものぼり、明治維新直後の明治元年（1868年）頃でも98邸あった。

けれども、現在、蔵屋敷の建物で、残存するものは、天王寺公園内に移設され保存されている「黒田藩蔵屋敷長屋門」とあまり知られていないが、服部緑地内の日本民家集落博物館内に移設されている豊前時枝藩（5千石で大名ではない）の「堂島の米蔵」のみである。

(3) 蔵屋敷の役割

蔵屋敷の役割は、大きく4つに分かれる。1つ目は「蔵」つまり年貢米や領内の特産物を保管販売するために設けた**倉庫**。2つ目は「屋敷」すなわち参勤交代の途上で藩主が滞在するための**御殿**。3つ目は幕府との情報の**窓口**。最後の1つが今回のテーマ、稲荷、天満宮や国元より勧進の屋敷神などの**祭礼**の場で、後述するように、庶民も参拝した。

右図は広島藩蔵屋敷で、稲荷社や巖島社（国元より勧進）などの屋敷神が見られる。



これらの屋敷神は、明治維新後の廃藩置県、神仏分離令、神社合祀令、地震・台風・水害・大火の災害、今次の大戦などを経て、現在どのようになっているかを見てみよう。

土佐藩蔵屋敷内に存在していた屋敷神が西区の「土佐稲荷神社」として存続していることは良く知られている。しかし、他藩の多くの屋敷神は、残念ながら廃社となった。また、辛うじて新たな場所に**移転**したり、他の神さんに**合祀**されたり、新たな地に**遷座**したりした神さんもあった。数は少ないが、幸運にも現地や近辺にそのまま**存続**し続けた前述の「土佐稲荷神社」の様な神さんもあった。

調査時点で存在が判明した11座を表「諸藩大坂蔵屋敷屋敷神の現状」に示す。

No.	藩名等	神名	状態	場所
①	加賀藩	天神宮	移転	天王寺区・太平寺
②	黒田藩	天満宮	合祀	西成区・生根神社
③	久留米藩	水天宮	合祀	丸亀藩・金刀比羅宮↓
④	丸亀藩	金刀比羅宮	遷座	高松藩・金刀比羅宮↓
⑤	高松藩	金刀比羅宮	遷座	北区・露天神社
⑥	津藩	稲荷大神	遷座	三重県伊賀市本町通
⑦	土佐藩	稲荷大神	存続	西区・土佐稲荷神社
⑧	島原藩	稲荷大神	存続	北区・日本銀行大阪支店
⑨	宇和島藩	和霊神	存続	北区・中之島フェスティバルター
⑩	三田藩	稲荷大神	存続	西区・金光教玉水教会
⑪	小倉藩	稲荷大神	存続	北区・中之島センタービル

2. 蔵屋敷の神さん

(1) 蔵屋敷の神さんの種類

蔵屋敷の神さんの種類は、蔵屋敷に保管されている米、すなわち稲の神「お稲荷さん」、蔵屋敷の米や金品の出入を書き入れ計算するための学問上達の神「天神さん」、国元からの年貢米や特産物を運搬する船の海上安全祈願の神「こんぴらさん」、前述の蔵島社や久留米藩の水天宮、宇和島藩の和霊神社、熊本藩の清正公、明石藩の人麿神社などの国元より勧進した神さんなど種々あった。

(2) 蔵屋敷の神さんと庶民

神社仏閣の参詣者数のランキングを相撲の番付風に表した見立て番付『神社祭礼仏閣法会浪華参詣大数望』（天保12年）の東之方の2段目に、「御屋敷祭」として蔵屋敷の屋敷神の祭礼が載せられている。そこには、阿波、鍋島、出雲、中国、筑後、米子、宇和島、亀井、明石の各藩と丸亀藩、高松藩中之島こんぴら祭が挙げられており、多くの庶民が参拝したことがわかる。

暁鐘成著の『浪華の賑ひ』（安政2年）には「高松金比羅社」の項があり、「夜店ありて賑わし門前の通りの町を俗に金毘羅町といふ」と記されている。

さらに、「高松金比羅社」については、寺社の台所事情を記した『浪華大紋日こがねの山』（天保元年）と題する祭礼時の賽銭のランキングを記録した刷り物にも「讃岐やしき金ぴら」として「一ヶ年さいせん高凡四千メ文ヨ 十月十日さんけいことニ多し（貫はメとも表す）」と、蔵屋敷内を一般公開し、年間に現在のお金に換算して約1億2千万円の賽銭収入があったことがわかる。

これらは、いかに日常的に蔵屋敷の神さんが庶民（浪速っ子）に溶け込んでいたかを示している。

(3) 蔵屋敷の神さん今どこに

明治維新後の廃藩置県等の荒波などを乗り越えて、現在その存在が確認できる諸藩の蔵屋敷屋敷神11座の現状を以下に記す。（詳細については別紙「大坂蔵屋敷屋敷神存続状況集成」を参照）

①加賀藩蔵屋敷屋敷神（天神宮）移転

前田家が先祖と崇める菅原道真公を祀る蔵屋敷内にあった天神宮の社殿・拝殿など一式を**天王寺区・太平寺**に移転した。今次の大戦で天神宮の社殿・拝殿共焼失し、鳥居のみが残存。

②黒田藩蔵屋敷屋敷神（天満宮）合祀

蔵屋敷内に祀られていた筑紫天満宮を黒田公が数ある引取希望先から**西成区・生根神社**への合祀を望まれ、天満宮社殿と石燈籠、天神牛などを移設。今次の大戦で社殿は焼失。石造物は残存。

③～⑤は集約して記述

③久留米蔵屋敷屋敷神（水天宮）合祀

④丸亀藩蔵屋敷屋敷神（金刀比羅宮）遷座

⑤高松藩蔵屋敷屋敷神（金刀比羅宮）遷座



久留米藩が明治政府に蔵屋敷を返上、蔵屋敷内に祀られていた水天宮は、丸亀藩蔵屋敷の金刀比羅宮に合祀（社殿は松島の天満宮御旅所に流用）。しかし、丸亀藩も返上することになり、高松藩蔵屋敷の金刀比羅宮に遷座。その後、高松藩も返上し、堂島中二丁目に遷座。さらに、明治42年の「北の大火」で被災のため、**露天神社**の境内末社「**水天宮・金刀比羅宮**」として祭祀。（上図参照）

⑥津藩蔵屋敷屋敷神（稻荷大神）遷座（元木村重成川崎邸の鎮守、大坂の陣後に藤堂家が入居）

廃藩置県後の跡地は、造幣局となったため、稻荷社は、明治3年（1870年）に同地より三重県伊賀市上野中町に遷座。明治43年（1910年）に神社合祀政策により上野東町の菅原神社に合祀されるが地元の強い要望により、現在地に戻座。社名は「**万吉稻荷社**」。

⑦土佐藩蔵屋敷屋敷神（稻荷大神）存続

藩蔵屋敷に隣接する長堀川に架かる鰹座橋のほとりに神社が祀られていた。この神社に第6代藩主、山内豊隆が、伏見稻荷から稻荷大神を勧進し、「**土佐稻荷神社**」とし、現在に至る。

⑧島原藩蔵屋敷屋敷神（稻荷大神）存続

蔵屋敷跡地は、維新後の明治4年（1871年）駅通司大阪郵便役所、明治18年（1885年）五代友厚邸、明治36年（1903年）に日本銀行大阪支店が入居、同地の稻荷は、昭和57年（1982年）の新館増設時に同館屋上に移設。なお、「**稻荷神社**」は非公開で写真撮影・参拝には特別な許可が必要。

⑨宇和島藩蔵屋敷屋敷神（和霊神） 存続

蔵屋敷内には、和霊神（宇和島藩家老・山家公頼を主神）が祀られていたが、明治18年（1885年）に蔵屋敷跡地に朝日新聞社が入居（祠は中庭に鎮座）、大正5年（1916年）の新社屋建築時に、地下1階に移転（この時に、伏見稻荷を合祀）、昭和40年（1965年）の中之島地下街工事にともない昭和43年（1968年）竣工の朝日新聞ビル13階屋上に、平成24年（2012年）の中之島フェスティバルタワー新築時に同館13階西側スカイテラスに移設。社名は「朝日稻荷大明神」。

⑩三田藩蔵屋敷屋敷神（稻荷大神） 存続

蔵屋敷跡に明治5年（1885年）玉水小学校（沿革を経て現西船場小学校）が創立された。その後、学校の統廃合で空き地となり、昭和10年（1935年）、跡地に金光教玉水教会が新築され、同地の鬼門（艮＝うしとら：東洋の12方位の丑と寅の間＝北東）角地に鎮座。社名は「荒光稻荷大明神」。

⑪小倉藩蔵屋敷屋敷神（稻荷大神） 存続

明治5年（1885年）に蔵屋敷跡地に郵政、電電公社関連の施設、さらに昭和50年（1975年）中之島センタービルが建てられ今日に至っている。蔵屋敷の屋敷神の記録は不明であるが、敷地東側植込み内に鎮座する祠が屋敷神に相当すると考えられる。社名は「玉吉稻荷」。

（4）蔵屋敷の神さん今ここに（①～⑪は前章の項番）

現在、その存在が確認できる、前章に記載の11座の神さんの現状を巡る観光コースを、比較的屋敷神が集中している中之島周辺区域と、分散して存在する地域とに分けて提案する。

①蔵屋敷の神さんパワスポベルト地帯コース

北区・露天神社に遷座した③久留米藩（水天宮）、④丸亀藩と⑤高松藩（金刀比羅宮）、中之島に今も残る⑧島津藩（稻荷）、⑨宇和島藩（和霊神）、⑪小倉藩（稻荷）、近在の⑩三田藩（稻荷）、それに中之島に点在する蔵屋敷跡を合わせたパワースポットベルト地帯を巡る約2時間のコースを設定する。



②周辺の観光スポットと巡るコース

前項の「蔵屋敷の神さんパワスポベルト地帯コース」から外れた①加賀藩（天神宮）、②黒田藩（天満宮）、⑥津藩（稻荷大神）、⑦土佐藩（稻荷大神）は、それぞれ、周辺の観光スポットと合わせて巡るコースが設定できる。（詳細は別紙「大坂蔵屋敷屋敷神存続状況集成」を参照）

①②のコースの案内パンフレット『蔵屋敷の神さん今ここに & 蔵屋敷の神さん今ここに』を作成したので探訪の折の参考にさせていただきたい。

<参考文献>

- 『大坂大坂変遷を古地図・古写真で追う』 学習研究社 2008年
- 『中之島誌』中之島尋常小学校幼稚園創立記念会 臨川書店 1974年
- 『キタ』一風土記大阪―宮本又次 ミネルヴァ書房 1964年
- 『大阪再発見』一中之島界限藩蔵屋敷跡―岡本吉富 牧歌舎 2008年
- 『なにわ大阪再発見』第4号,第6号 なにわ文化研究会 2001年,2003年
- 『大阪人』特集：中之島（財）大阪市都市工学情報センター 2009年
- 『月刊島民』Vol. 32, 54, 61, 73, 78の各号 月刊島民プレス 2011～13年
- 『大阪春秋』第13号 特集：天満堂島中之島 大阪春秋社 1977年
- 『堂島の歴史』堂島界限歴史散歩 大阪堂島マラソンクラブ 1977年
- 『葦火』29, 64, 78, 81, 86, 88, 90, 95, 97, 99, 102の各号 大阪文化財研究所
- 『大坂町奉行管内要覧』大阪市史料第十五輯 大阪市史編纂所 1985年
- 『おおさか凶像学』近世の庶民生活 北川央 東方出版 1985年



- SPECIAL THANKS
- ・護国山太平寺
 - ・生根神社
 - ・土佐稻荷神社
 - ・朝日新聞社
 - ・日本銀行大阪支店
 - ・金光教玉水教会
 - ・加賀藩蔵屋敷神【天神宮】
 - ・黒田藩蔵屋敷神【筑紫天満宮】
 - ・土佐藩蔵屋敷神【土佐稻荷神社】
 - ・宇和島藩蔵屋敷神【稻荷神社】
 - ・島原藩蔵屋敷神【稻荷神社】
 - ・三田藩蔵屋敷神【稻荷神社】

大阪市の定期観光バスを考える

石田 一雄

【目的】

（背景①） 大阪市営定期観光バスの廃止

- ・大阪市営定期観光バスは、1936年（昭和11年）営業開始と70年の歴史があったが、2008年（平成20年）3月で廃止された。理由は「赤字」という財政面の問題であった。
- ・「観光客のニーズは多様化しており、観光バスを利用し観光名所を巡る形態は従来より減少してきている」とされた。

（背景②） 定期観光バス廃止の真の原因は？

- ・しかし、その傾向は大阪だけではない。観光地である京都や奈良でも同様の傾向があるのは事実だが、定期観光バスはいまだ健在である。
- ・大阪市の定期観光バスが不振におちいった原因は別にあるのではないか。市場のニーズに応える、もっと魅力的なコース、利便性を提供できれば、定期観光バスを復活できるのではないか。

【研究目的】

- ・ビギナー（初めて大阪を訪れる観光客）のニーズにも応える、他都市（京都、奈良など）と差別化された大阪らしい、大阪しかない定期観光バスのモデルコースの提案。

【内容】

- ① 営業当時の大阪市営定期観光バス、他都市の定期観光バスの定番コースを検討した。
- ② 大阪市の報告書「国際観光都市・大阪における観光バス整備に関する検討」【2013年（平成25年）2月28日】を検証した。
- ③ 現在運行中のバスを比較検討したところ、欠落している視点・ターゲットがあると判明。それは進展しつつある高齢化への対応であった。
- ④ 高齢者も利用しやすい、大阪らしい魅力的な定期観光バスコースを検討した。

【結果】

定期観光バスコースの提案 6コース

- ① 定番名所をめぐるループバス
- ② 水都大阪の川と橋をめぐる
- ③ 大阪の歴史をめぐる
- ④ レトロな「大大阪」をめぐる
- ⑤ なにわ庶民の市場・商店街をめぐるⅠ
- ⑥ なにわ庶民の市場・商店街をめぐるⅡ

① 営業当時の大阪市営定期観光バスの検討

～案内スポット・コースが魅力的だったか？

- ・案内スポットについては、人気度の違いはあるが、今も健在な観光スポットが多かった。ただし、スポットに偏りがあった。
- ・コース設定については、コース・コンセプトに欠けた。歴史・伝統か、最先端か、レトロか、定まらずごちゃまぜであった。



廃止された「にしじ号」

他都市の定期観光バスの定番コースの検討

- ・いずれも、昔からの定番スポットはほとんど変わっていない。
- ・東京で、六本木ヒルズ、お台場、東京スカイツリーが新しい。

② 大阪市の報告書「国際観光都市・大阪における観光バス整備に関する検討」

- ・市場の動向 ⇒個人旅行が多く、回遊性が高い
- ・利便性向上が必要 ⇒観光バスを求めるニーズの多さと、旅行形態の多様化
- ・他市の状況 ⇒国内・海外主要都市では、ほとんどの都市が観光バスを導入
- ・行政の戦略 ⇒世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力を創造・発信
⇒来阪外国人旅行者の大幅増加
- ・運行の方向性 ⇒外国人中心ー 若干高額な観光バスの運行
⇒日本人中心ー 低額なループバスの運行

ところが、

- ・具体的なシミュレーションでは、採算に乗らない。
- ・民間事業者単独での運行は大変厳しい
- ・行政による金銭的補填、公共投資は難しい。



大阪市の報告書

として、結論は、「当面、民間事業者の既存のツアー、ループバスの広報支援を行っていくことが得策」とされた。

③ 現在運航中のバスを比較検討したところ、欠落している視点・ターゲットがあることが判明した。



OSAKA SKY VISTA



大阪ダックツアー



エース JTB こてこて号

それは「高齢化への対応」であった。

- ・日本人の高齢化はますます進行している。

2014年（平成26年）高齢者人口3,296万人。高齢化率（65歳以上）25.9%（4人

- に1人)と過去最高になった。⇒2035年(平成47年) 33.4%(3人に1人)へ
- ・団塊の世代(1947~1949年生)がすべて高齢者・年金世代へ。2014年(平成26年)団塊の世代以上(65才以上)は641万人、高齢者の5人に1人を占める。
- ・急増している外国人観光客対策も必要だが、高齢者・年金世代をターゲットにしないでなければならない。

高齢者、特に団塊の世代のニーズは、

- ・国内旅行のニーズは高い。今後5年くらいでお金をかけたいことでは、①旅行、②健康維持、③子供や孫への支援。・海外旅行より年1回以上国内旅行のニーズ有。(2013年3月 JTB 総合研究所調査)
- ・国内旅行の目的では、①温泉・リゾート、②観光(自然)、③観光(歴史的建造物など)、④仲間と楽しむ、⑤体験(グルメ、買物)(2007年5月 NTT コムリサーチ)

今後必要な方向性は・・・

<高齢者を大阪に呼び込もう>

- ・高齢者のビギナーでも気軽に観光できる定期観光バス
- ・高齢者のニーズにあった観光コース

<必要なのは「お・も・て・な・し」の心>

- ・「自分で好きなように、周遊パスを使って公共交通機関と徒歩で観光スポットを回れ」は、若い元気な人が対象である。高齢者には、観光に回りやすい行き届いた気配りでインフラ整備が必要。
- ⇒ 高齢者をターゲットに整備をすれば、日本人の他の年齢層や、外国人の個人旅行客も呼び込めるのではないか。

高齢者も利用しやすい定期観光バス運行の前提条件

- ・発着場所・・・JR大阪駅またはJR新大阪駅
- ・バス停・・・駅に近くわかりやすい場所、わかりやすい誘導表示も必要
観光案内所でもきちんとPR
- ・使用車両・・・ノンステップバス(高齢者が乗降しやすい)
屋根や窓はオープンでない。小型バスやマイクロバスも活用
- ・乗降条件・・・下車観光あるいは乗降自由
- ・ガイドつき、あるいは自動音声ガイドシステム【外国語(英中韓など)にも対応】

④ 高齢者向け観光コースの条件とは

1. 高齢者ビギナーが対象⇒大阪らしい、大阪しかないスポット
2. 観光の4要素を備える⇒見る、食べる、遊ぶ、買う
3. 1か所の滞在時間は短く⇒じっくり滞在型でなく、エッセンスを味わってもらう
4. コースのコンセプト・テーマが必要⇒新しいもの、伝統的なものを
ゴチャマゼにするのではなく、わかりやすいコンセプト・テーマが必要

<定期観光バスコースの提案Ⅰ ①>

- ・若者の手軽に低料金で観光したいニーズに答えるコース
- ・大阪名所のラッピングバス、乗降自由、1周45分、料金は210円（市バスと同じ）
- ・地下鉄も利用できる1日乗車券「エンジョイエコカード」「周遊パス」も利用可に
- ・運行日は、土・日・祝。運行間隔は、シーズン15分／シーズン外30分

① 定番名所をめぐるループバス

JR大阪駅⇒大阪城⇒あべのハルカス⇒通天閣・新世界⇒道頓堀
⇒空中庭園展望台（梅田スカイビル）⇒JR大阪駅

<定期観光バスコースの提案Ⅱ ②～⑥>

- ・高齢者の観光ニーズにも応えるコース（自然、歴史的建造物、グルメ・買物）
- ・半日コース（3～4時間）、ボランティアガイド同乗、または自動音声ガイド
- ・料金は一律1,000円。追加料金で「大阪あそ歩」等のまち歩きと組み合わせも可
- ・運行日は、原則シーズンの土・日・祝のみ

② 水都大阪の川と橋をめぐる

JR大阪駅⇒大阪城⇒大阪城港⇒【船移動】八軒家浜船着場⇒道頓堀（太左衛門橋船着場）⇒千本松大橋（めがね橋）⇒なみはや大橋（全長1,740m）⇒港大橋（日本最長のトラス橋）⇒JR大阪駅（道頓堀以降のコースは船の運航時期のみ追加）

③ 大阪の歴史をめぐる

JR大阪駅⇒大阪天満宮⇒大阪城⇒四天王寺⇒住吉大社⇒JR大阪駅

④ レトロな「大大阪」をめぐる

JR大阪駅 ⇒（日銀大阪支店、大阪ガスビル）⇒綿業会館⇒大阪倶楽部⇒芝川ビル
⇒生駒ビル⇒（小西家住宅）⇒大阪市中央公会堂⇒JR大阪駅

⑤ なにわ庶民の市場・商店街をめぐる Ⅰ

JR大阪駅⇒天神橋筋商店街 ⇒空堀商店街 ⇒千日前道具屋筋商店街⇒黒門市場
⇒JR大阪駅

⑥ なにわ庶民の市場・商店街をめぐる Ⅱ

JR大阪駅 ⇒福島聖天通商店街（福島聖天）⇒大阪鶴橋市場・御幸通り（生野コリアタウン）⇒サンクス平尾（リトル沖縄）⇒JR大阪駅

※ルートに組み入れる商店街は、都度変更可能、100円商店街との組み合わせも可能

<奈良市・堺市で新しいループバスが登場>

- ・奈良「ぐるっとバス」2014年（平成26年）6月から、
- ・「堺まち旅ループ」バス 2015年（平成27年）3月から
- ・京都市では、2005年（平成17年）から「洛バス」を運行。



<2020年の東京オリンピックに向け、大阪市内に、高齢者にも、

外国人観光客にも、わかりやすく、気軽に利用できる、定期観光バスの復活を>

堺まち旅ループ

大阪城でつながろう！

藤井 里江

【目的】

大阪城で他地域とつながりのあるネタを見つけてアピールすることで、大阪城はよその城。と思われていた方にも「大阪城と私の間にこんなつながりがあったのか！」と知って頂き、観光の目的地として大阪城を選択して頂くことを目的として今回のテーマで調査を行うこととした。また大阪城に来られたお客様にはつながりネタを知ってもらうことでより強い興味、親しみを感じて頂き、地元でプチ自慢できるお土産話を持って帰って頂くことで、周囲に「それじゃあ私も大阪城へ行ってみようか」と思われるような波及効果を期待し、大阪城及び大阪への観光客誘致につなげることを目的とする。

【内容】

大阪城内において調査したつながりネタを5つの分類に分け、その中の10項目の詳細を本文及び参考資料で紹介する。

分類	つながりネタ	つながりキー	主な誘致先
銅像	① 豊臣秀吉像（天守閣4階）	天岡均一氏	兵庫県
	② 豊臣秀吉像（豊国神社）	中村晋也氏	三重県
	③ みどりのリズム像（記念樹の森）	清水多嘉示氏	長野県
	④ 世界平和連邦像（大手前広場）	北村西望氏	長崎県
城代	⑤ 城代上屋敷跡（西の丸庭園）	土井利位氏	茨城県
建物・庭園	⑥ 大阪砲兵工廠化学分析場跡	置塩章氏	宮崎県
	⑦ 秀石庭（豊国神社）	重森三玲氏	岡山県
刻印	⑧ 黒田家丁場	刻印	福岡県
	⑨ 南外堀東部刻印群	担当大名刻印	西日本各地
植樹	⑩ 植樹碑	豊国神社前蘇鉄	学校・企業

【結果】

今回の調査の結果、大阪城には大阪府を除く全国46都道府県のうち、40都府県と何らかのつながりがあることが分かった。本文・参考資料で紹介するようなつながりネタを基に、つながり他府県の地域観光課、企業広報課、旅行社、在阪他府県事務所、在阪県人会、学校、団体などへ観光プランを提案し、的を絞った観光誘致につなげることを提言する。また、これまでにない大阪城観光ツールとして「刻印巡りツアー」の企画等で大阪城の素晴らしい石垣も全国に紹介したい。

1. はじめに

大阪城において観光客の方に向けて大阪城についての紹介をする観光案内が一般的であるが、私の17年余りのガイドの経験から、来られたお客様の地元のお話を大阪城の説明に加えることで、断然興味の持ち方が変わることを実感している。つまり、自分とは関係ないところの話は「ふ～ん」で終わってしまうかも知れないが、お客様の地元の話や自分の持っている知識に引っかかった瞬間「へえ～！」というワクワク感に変わるのである。

このことから、大阪城で他地域や組織とつながりのあるネタを元に大阪城への呼び込みポイント、大阪城からその周辺への観光ルートを提案し、観光客を誘致することを目的とした。

2. 大阪城の歴史概略

大阪城と言え、豊臣秀吉が造った城として有名であるが、その前史として、本願寺の寺内町が存在した。当時の権力者織田信長との約10年に及ぶ合戦の後、本願寺は紀州に退去し、織田信長が本能寺で倒された後、豊臣秀吉がいわゆる城という形で大坂城を造ったのである。豊臣家が滅んだ後、徳川幕府により大坂城が再築され、幕府直轄として、大阪にありながら江戸幕府の城として西日本の抑えの役割を持つ。幕末には対幕府軍との西日本の拠点として利用された。近代に入ると、市民の手で天守閣が復興されるも、戦況が進むにつれ、軍の拠点として利用されるようになる。戦後には市民の公園として管理されるようになった。このように各時代においてキーとなる人物が大阪を選び、重大な事件の舞台として注目される。

歴史を習う上で大阪城は時代の変革期にその都度登場するが、他府県の方から見ると、「自分とは直接結びつかない」と感じられる方もおられるかも知れない。また「特別歴史が好きな訳ではないので大阪城には興味が湧かないかも」と思われる方に対しても、意外なつながりがあることを知って頂き、これまでとは違った目で大阪城への興味を持って頂くことを期待する。

3. 大阪城観光の現状

現在、大阪城にはたくさんの観光客が来られているが、外国人観光客の方の割合が随分増え、国内観光客は減少していることを実感している。大阪城に来られた方に直接「他にどこに行かれましたか？（行かれますか？）と質問すると、一番回答の多いのはやはり「USJ」で、その他、「通天閣」「道頓堀」等が多い。大阪城には来られずにこれらに観光に来られる方はもっと多いかも知れない。外国人観光客の誘致についてはもちろん必要であるが、今回は国内観光客が大阪城を是非チョイスして頂けるきっかけになるよう、次のようなサンプルを提示する。

4. つながりネタサンプルの提示（ネタの詳細については別紙を参照されたい）

大阪城における他地域・組織とのつながりネタを①銅像②人物（城代）③建物・庭園④刻印⑤植樹の5つに分類し、大阪城でのつながりポイントと、周辺へつながるコースがあるものはそのサンプルを提示する。（本文中敬称略）

1) 銅像

① 豊臣秀吉銅像（大阪城天守閣4階常設展示）

制作者は天岡均一である＞出身地とのつながり＞兵庫県（三田市）
提案：天岡均一ゆかりの地巡り：大阪城天守閣（豊臣秀吉銅像）→難波橋ライオン像（天岡均一作品）→天王寺動物園（スケッチに通った）→大阪市設南霊園（天岡均一墓）



大阪城天守閣蔵

② 豊臣秀吉銅像（豊国神社）

制作者は中村晋也である＞制作拠点、出身地とのつながり＞鹿児島県（鹿児島市）・三重県（亀山市）
提案：中村晋也作品巡り：大阪城内豊国神社（豊臣秀吉像）→大阪取引所（五代友厚像）→御堂筋彫刻ストリート（姉妹像）



③ みどりのリズム像（記念樹の森）

制作者は清水多嘉示である＞出身地のつながり＞長野県（諏訪郡原村）
提案：清水多嘉示作品巡り：大阪城公園記念樹の森（みどりのリズム像）
→中之島（関一像）→御堂筋彫刻ストリート（みどりのリズム像）



④ 世界連邦平和像（大手前広場）

制作者は北村西望である＞出身地、同様作品のつながり＞長崎県（南島原市）・東京都（三鷹市）
提案：北村西望作品巡り：大阪城大手前広場（世界連邦平和像）→中之島図書館（文神像・野神像）



2) 人物（城代）

⑤ 大阪城代屋敷跡地（西の丸庭園）

第58代城代土井利位＞所領地とのつながり＞茨城県（古河市）
提案：土井氏ゆかりの地巡り：大阪城西の丸庭園（大坂城代屋敷跡）→善福寺（土井氏縁のどんどろ大師）



3) 建物・庭園

⑥ 大阪砲兵工廠化学分析場跡

設計者置塩章＞同じ設計者の建物（宮崎県庁）がある＞宮崎県



⑦ 秀石庭（豊国神社）

作庭されたのは重森三玲である＞出身地つながり＞岡山県



4) 刻印

⑧ 黒田家丁場（大手門周辺の例）

黒田家は、徳川大坂城の中で丁場面積としては9番目の広さを担当した。第一期工事は黒田長政の時代、第三期工事は黒田忠之の時代。大手門を挟んで右と左に丁場があり、刻印が見られる。＞黒田家にゆかりの兵庫県・福岡県・大分県（・岩手県）
提案：黒田家丁場刻印巡り：第三期工事（黒田忠之）丁場→第一期工事（黒田長政）丁場



⑨ 南外堀東部刻印群の例＞西日本各地

よく展望台には望遠鏡が設置されているが、大阪城では城内から外を眺めるのではなく、堀外から城壁・刻印を眺める望遠鏡等を設置もしくはレンタルし、望遠鏡等を持参していない観光客にもよく見えるようにしたり、刻印についての説明板を設置したり、案内人を用意する等の企画が有効ではないだろうか。
刻印見学ポイント例：南外堀東端二番櫓跡下付近（東から）鍋島家（佐賀県）→秋月家（宮崎県）→久留島家（大分県）→古田家（島根県）→稲葉家（大分県）→木下家（大分県）→細川家（福岡県）→本多家（奈良県） ※（ ）内は築城当時の領地より



5) 植樹

⑩ 植樹＞学校・各組織

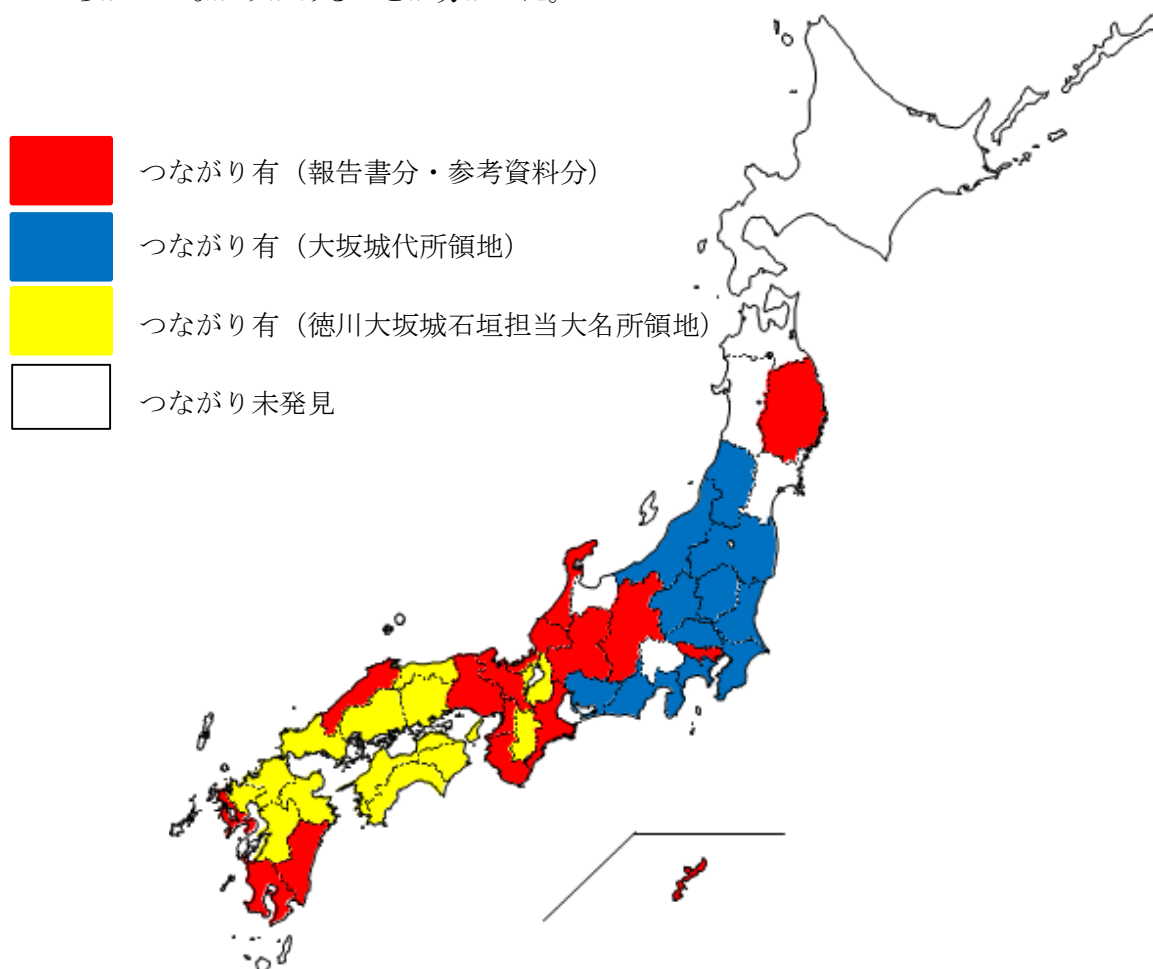
城内にはたくさんの植樹があり植樹碑が添えられているが、これらについては他府県よりも大阪の学校や企業、組織のものが多いたが、中には存在を忘れられてしまったものもあることが調査にて判明した。改めてそれらを紹介することで、大阪城に來られて思い出を語り合うきっかけとして来城を提案したい。



中之島小学校の例：明石藩蘇鉄→田蓑小学校へ寄贈→中之島小学校へ合併→大正15年大阪市へ寄贈（中之島へ移植）→大阪城内へ移植（蘇鉄は代替わりしているが、石碑は大正時代のもの）

5. つながり分布図

今回の調査において大阪城とつながりのある他府県を日本地図で表してみると下図のようになった。まず今回報告書・参考資料で記載したつながり地域を赤で、それ以外のところにおいて大阪城代とつながりのある地域を青で、徳川大坂城石垣工事を担当した大名とつながりのある地域を黄色で塗りつぶした。当然ではあるが、徳川大坂城代つながりでは譜代大名が就任したことから東日本が多く、徳川大坂城石垣工事担当大名つながりでは主に外様大名が工事を担った為西日本が多く塗りつぶされていることが一目瞭然となった。私が調査した中でつながりネタを見つけられなかったのは、北海道、青森県、秋田県、宮城県、富山県、山梨県で、全国大阪府以外 46 都道府県の内 88%は内容の強弱はあるものの、大阪城となんらかのつながりがあることが分かった。



6. おわりに

今回の調査で大阪城とのつながりネタを発見した大阪府を除く 40 都府県に対しては、つながりネタを基に親近感の湧く城として対象地域での観光ツールの掘り起しを含めて具体的な観光プラン、ルートを設定して観光客誘致を目指し提案していきたい。

また、私がつながりネタを見つけられなかった 6 道県についてはいろいろな方からのご意見も頂戴しつつ、更に調査を進めてつながりネタ全国制覇を目指したい。

<つながりキーパーソン生没年>

- ①天岡均一（1875-1924）
- ②中村晋也（1926～）
- ③清水多嘉示（1897～1981）
- ④北村西望（1884～1987）
- ⑤土井利位（1789～1848）
- ⑥重森三玲（1896～1975）
- ⑦置塩章（1881～1968）

碑を観光に活かすための提言

行俊 良雄

【目的】

大阪には長い年月の中で生まれた歴史やこの地にゆかりのある人のエピソードが街の中の至る所にある。歴史的な遺物の多くはすでに実体がなく、その場所は日常生活の中に埋没してしまっている。まち歩き観光をする人にとっては、碑は実体のなくなったものの場所を特定したり、起こったことをイメージさせてくれるものである。

本来石碑とは、設置者が何らかの目的を持って歴史的事実や功績のあった人物を顕彰し、広く一般の人々や後世に伝えるものである。同時に観光的な視点から見ると、観光客の興味を刺激し、その地の観光に向かわせる動機にもなる。

本研究においては、まちの中にある碑というものについて資料と具体的な事例に基づいて、観光客にとってどういう碑であれば興味を引くか、また、楽しめるかという要素を抽出しまとめたものを、今後碑を設置しようとしている個人や団体に対して提言する。

なお、この提言は碑を建立する本来の目的を尊重しながらも、少しの工夫で多くの人々に楽しみを与え、観光面に貢献できるということを意識していただく為のものである。

【内容】

まず、碑の設置の現状について「大阪市顕彰史跡」202か所の建立年、碑の形、対象とする時代、地域分布について調べた。次に他の資料の情報も調べて現地調査を進め、碑を観光に活かすための障壁となっている問題点とその解決策を整理した。

さらに、既に他の地域で成功している具体例をとりあげ、人気のある碑、場所がどのように発生し、魅力的なものになっていったかという経緯を調べ、その要因と背景となるしくみを洗い出した。碑の設置後、その存在を発信する方法としてはインターネットが有効な手段であるが、観光客が訪れた場所で、発信したいと思わせるための要素は何かということについても合わせて考察する。

【結果】

今回の研究で碑を観光に活用する為の提言と予想される効果を次のようにまとめた。

①発信しなければ伝わらない。

②碑の設置について観光客の興味を引くためには次の事に留意する必要がある。

1) 碑が対象とする内容・表現 2) 碑の形状 3) 設置場所

③発信されたものがインターネットなどを通じて広く伝われば、人々の興味を刺激し観光へと向かわせる動機になり地域が活性化する。また、設置者もその恩恵を受ける。

④碑の設置後、観光に活用するために知名度を高める手段としては、継続的な関連イベントの開催と、インターネットで発信される頻度を高めることが必要。

1. 碑の設置状況の現状調査

碑の設置者としては、大阪市、大阪府、府下の市町村、学校、企業、地域住民（地域のライオンズクラブや自治会）、碑にゆかりのある人や団体があげられる。今回の設置状況の現状調査にあたっては、比較的一般によく知られた歴史的事跡を対象とし、設置数も多い「大阪市顕彰史跡」を調査対象とする。

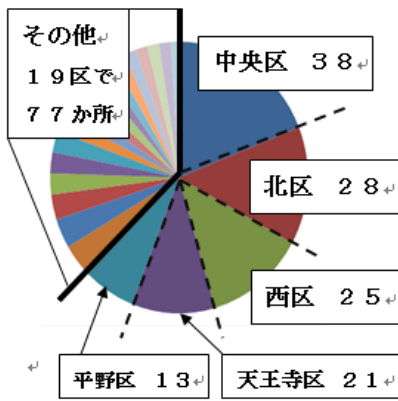
1) 碑が建立された年 (表1)

設置年	設置数	形状
1959年～1970年	毎年4～12か所	石柱
1971年～1989年	毎年1～3か所 (1982年-0)	石柱
1990年～2005年	毎年3か所(1992年-2か所、2001年-2か所)	石柱+ステンレスプレート
2006年～2009年	設置なし	---
2010年～2013年	毎年6～8か所	樹脂プレート

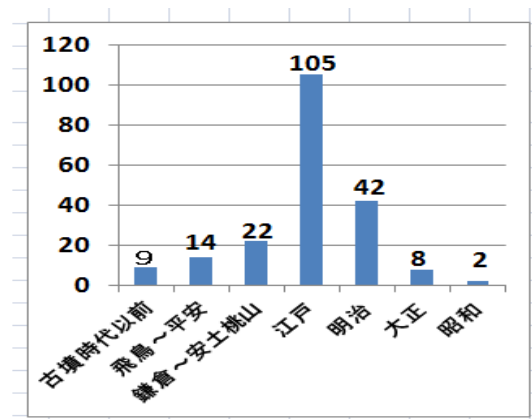
2) 区別の建立数 設置状況は(図1)の通り。

中央区、北区、西区、天王寺区、平野区の5区で125か所設置されている。これは全総数202か所のうちの62%にあたる。逆に大阪市の周辺地域は少ない。

3) 江戸時代の事跡を対象とする碑が105と全体の半数以上を占める。一方、昭和はわずか2つにとどまる。(図2)



(図1) 大阪市顕彰史跡区別設置数



(図2) 大阪市顕彰史跡碑の対象とする時代



(写真1) 道頓堀紀功碑
中央区 日本橋北詰



(写真2) 大阪市電創業地
西区 九条新道



(写真3) 五代友厚像
天王寺区 大阪ビジネスフロンティア高校
(背中しか見えない)

2. 観光の対象として見たときの現状の碑の問題点（現地調査による）

すでに建立されている碑について現地調査すると、観光的な視点からは次の諸点が問題になる。（観光的な要素を抽出する為のものであり、現状の碑を評価するものではない。）

- 1) 内容が難しい。（具体例・写真1 道頓堀紀功碑 すべて漢文、説明板なし）
- 2) 見映えが地味。（具体例・写真2 大阪市顕彰史跡の石柱）
- 3) 一般の人が入れない場所に設置されている。おもに学校の敷地内に多い。（表2）

（表2）通常は設置場所の関係者しか見れないが、許可を得れば見ることができる碑

	碑の内容	備考	設置場所
1	「真理探究」	福井謙一(卒業生) 昭和56年ノーベル化学賞受賞	大阪市立岸里小学校 大阪市西成区千本中1丁目
2	与謝野晶子歌碑	「…君死にたまふことなかれ…」	大阪府立泉陽高校 堺市堺区車之町東3丁
3	近代水泳発祥之地	1916年(大正5年)日本初の学校プール	大阪府立茨木高校 茨木市新庄町
4	「以文会友」	川端康成(卒業生) 昭和43年ノーベル文学賞受賞	大阪府立茨木高校 茨木市新庄町
5	五代友厚像（銅像）	前身の大阪商業講習所の創立者	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校 天王寺区
6	洗心洞跡	大塩平八郎の私塾跡 大阪市顕彰史跡	造幣局官舎内 大阪市北区天満1丁目
7	佐伯祐三生誕の地	洋画家 佐伯祐三の生家 大阪市顕彰史跡	光徳寺 北区中津2丁目
8	貴志康一生誕地	作曲家 貴志康一の生家跡 大阪市顕彰碑	太閤園内 都島区網島町

- 4) その他 重要な歴史的事象であるのに碑がない。（第5回内国勸業博など）

3. 観光の対象に活かすための解決策（先にあげた2. の項目番号に対応）

- 1) 表現の難しいもの。別途、由来の説明板を付ければわかりやすい。（写真1）
- 2) 碑の見映えは観光に活用する場合、重要な要素になる。以前に比べて、手軽に撮影することができる機材（スマートフォン、タブレットなど）が増え、観光客は多くの写真を撮影する。この写真は記念写真として残すだけではなく、インターネット上にアップされ、そのシーンは次々と加速度的に人々に広がっていく。その際、ブログで発信したくなる要素としては次のものがあげられる。

- ①エピソードをモチーフにしたおもしろい形。（写真4、写真5）
- ②その碑が今、話題になっている。たとえばテレビで放映中の番組に関連する。
- ③まちを歩いていたら意外な碑に出合った。（写真6）



池田市「ビリケン像」(写真4)
ビリケンさんゆかりの田村駒治郎はこの地の出身者。



なんばパークス 大阪球場跡のプレート。当時と同じ位置に設置されている。



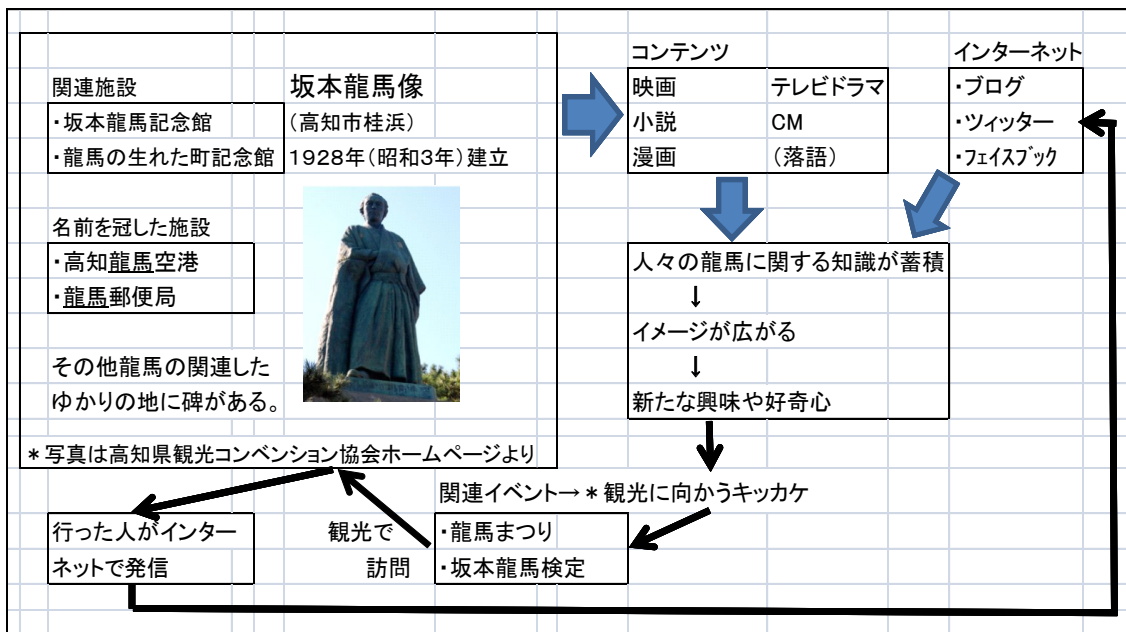
阿倍野区 南大阪幼稚園(写真6)
「サッチャーン」の歌碑。作詞者の阪田寛夫(芥川賞作家)は卒業生。

- 3) 学校の敷地内に創立者や卒業生の功績を顕彰した碑がいくつか見られる。一般の人が入れない場所なので許可を得る必要がある。ノーベル賞受賞などの功績はその学校の関係者以外の人にとっても興味深いものであるため、敷地の外からでも見える場所に設置することが可能であれば観光面には役立つ。

4. 他の地域での成功例を参考にする。

現状、多くの人を訪れる人気のある場所、碑（銅像）として高知市の坂本龍馬像の事例をとりあげる。

この像が建立されたのは、1928年（昭和3年）で、地元の有志の尽力で桂浜に設置された。戦前はおもに映画で、戦後はテレビ、小説、漫画などのコンテンツで多くの人に龍馬自身の生き方やエピソードが知られることになり、記憶の中にその知識が蓄積されていった。そこから新たな興味や好奇心が生まれ、観光に向かわせる動機となった。さらに、イベント開催やテレビドラマを誘致することにより知名度を上げるとブランドとしての地位が確立した。また、その地域にゆかりのある人はブランド化しやすい。一連の流れは次の表の通り。



5. これから碑を設置する人、団体への提言

①その場所で起こった出来事をまず発信しなければ伝わらない。

碑の設置数はその地域の歴史の深さを示す指標として重要なものである。

②碑の設置について観光に活用するためには次の事項に留意する必要がある。

1) 内容 (わかりやすい表現、広く一般に知られたものとの関係のある身近な対象。)

2) 碑の形状 (記念写真を撮りたい、インターネットへアップしたくなるような形)

・おもしろい形 ・話題性 ・意外性

3) 設置場所 (見えやすい場所、人の多く集まる場所)

③発信されたものがインターネットなどを通じて広く伝われば、人々の興味を刺激し観光へと向かわせる動機になり地域が活性化する。また、設置した学校、企業、地域団体、個人などはイメージアップや訪問者増加などでその恩恵を受ける。

④碑の設置後は関連イベントの開催 (毎年)、映画、ドラマの撮影地の誘致などで継続的に知名度を高め、維持する方法を講じなければならない。

生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを

辻本 伊織

【目的】

大阪には文学者・芸能人の像（写真・画像・銅像など）が少ないのではなからうか？大阪のまち歩きをここ何年か続けている間に生じた疑問である。人物ゆかりの碑は結構あるのだが、単に碑だけがあっても、その人物のイメージが広がらない。その人間を彷彿とさせる具体的な手段—それはリアルな像をおいてない。そして像という記号を物語に変化させていくことが重要である。物語によって大阪の町の時間層・空間層を豊かなものにしていくにはどうすればいいか？それを探究する過程から生まれた観光資源化プラン—生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを造立することを提言する。

【内容・結果】

1、プロムナードの設置場所をどこにするか？

上町台地の中心部に位置する生國魂神社。大阪でも一二と言われる古社である。この神社境内の北側に現在、井原西鶴像と織田作之助像が設置されている。井原西鶴は生誕350年記念、織田作之助は生誕100年を記念しての顕彰・造立であるが、今のところこの二つの像はそれぞれ無関係であり、今後どういう方向に向かうのかは定かではない。しかし、せつかく大阪を代表する文学者ふたりがこうして顕彰されているのである。それをここで止めるのはいかにも惜しいものがある。できるならば、テーマをはっきりさせて大阪を一覧できる文学者群および芸能者群をここに結集させてはどうだろうか。10以上のブロンズ像（あるいは石像）を配置してプロムナードを造る。そこを歩けば大阪の文学と芸能がストリームで自然と理解できるような仕組みができあがる。

2、顕彰する具体的な方法とは？

比較的予算を調達しやすいシステムで大阪の新名所と新イベントを実行させることを眼目としている。像を制作・造立するために年1回の彫刻コンペティションを開催する。石膏像・塑像の応募作から1点選びブロンズ制作する。像を永遠に顕彰するとともに、その協力者（パートナー、スポンサー）の名前も作者名とともに像台座の然るべき箇所に記銘される。今後10年間のイベント実行をも視野に入れておく必要がある。

3、誰を顕彰するか？

そのような場所に誰をもってくるか。私見では、3人目は上町台地出身の直木三十五を持ってきたい。直木賞の名ばかりがいたずらに高く、その由来となったご本人出身地の大阪でさえほとんど知られていない。作品はともかく顔さえ知らない人が多いのではなからうか。彼こそまず、像として顕彰し、物語を紡ぎ出してもらうにふさわしい文学者（文豪）だと考える。

1. プロムナードの設置場所をどこにするか？

大阪の中心部が望ましい。

当然人々によく知られた立ち寄り先であれば申し分ない。

プロムナードを設置する十分なスペースが必要である。

生國魂神社正門

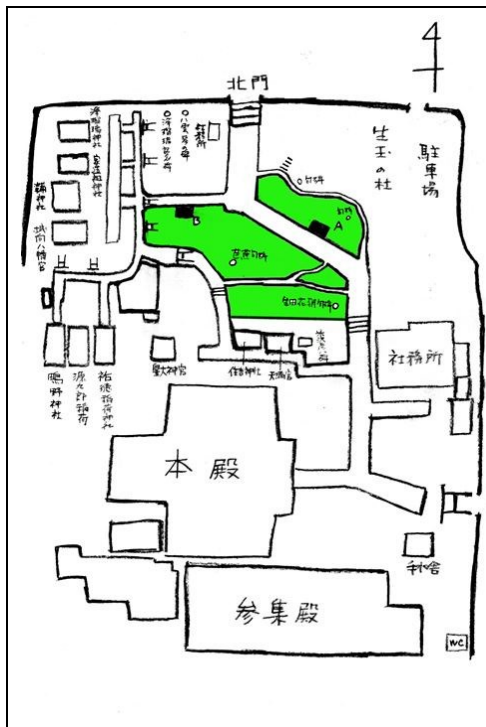
大阪府大阪市天王寺区生玉町 13-9



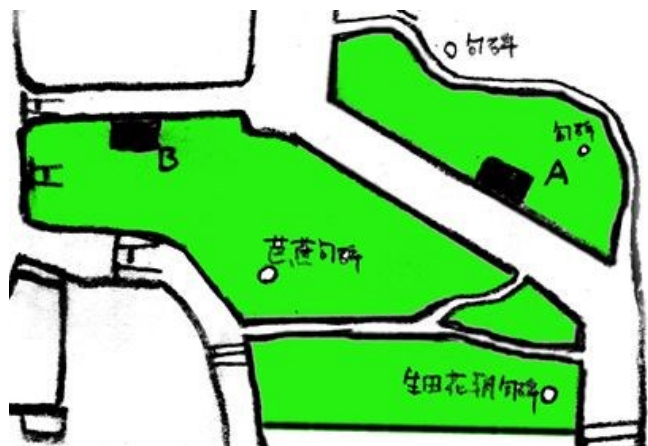
そこでいくつかの候補地から選び出したのが上町台地の中心部にある大阪の古社で生島大神・足島大神を御祭神とする生國魂神社である。神社としての知名度・社格は高い。

神社の北側の部分は日本庭園化され散策道もある。さらにありがたいことに井原西鶴と織田作之助の銅像がすでに設置されている。巡回路もあり、スペースも十分である。ここを充実させれば、現在ある像も有機的に意味を深め相乗効果が望める。生國魂神社の魅力を高め、他のどこにもないユニークな文学と芸能のプロムナードができる。

生國魂神社境内図



左図のプロムナード化部分を拡大する



Aに井原西鶴像 Bに織田作之助像
後は松尾芭蕉・生田花朝など句碑がいくつかあるだけ、余裕をみて20人くらいなら銅像設置可能ではなかろうか。

2. 顕彰する具体的な方法とは？

- ①比較的安価な予算で実行可能なこと
- ②イベント性・話題性があること
- ③創作者・パートナーに訴求しやすいこと

この3点を考慮してなおかつ永続性があり、顕彰される人物も、顕彰される場所も、この実行イベントも大阪の発展・活性化に寄与することを目的とするものである。

彫刻コンペティション ポスター例

**文学と芸能のプロムナード
彫刻コンペティション**

**賞金
1,000万円**

大阪の文学者・芸能人のイメージと業績
を未来永劫たたえましょう。

応募資格 プロ・アマチュア 年齢不問

締切り 00年 0月0日まで

主催 生國魂神社
彫刻選考委員会

さあボクに続いて
プロムナードに集まろう

コンペティションに関して

- ・実行委員会を設置し顕彰する人物を選ぶ。
私案では直木三十五
- ・プロ・アマを問わず応募者に広く呼びかける。
- ・一般にもこういうイベントがあり、同時に新名所たる『文学と芸能のプロムナード』ができることを知らしめる。
- ・コンペティションの応募は石膏像・塑像での応募とする。
- ・優秀者に賞金とブロンズ像制作設置し、栄誉を恒久的に顕彰する。
- ・パートナーシップとして資金面での援助に貢献された方も、その栄誉を恒久的に顕彰する。

パートナーシップに関して

- ・賞金100万円、制作費100万円を提供していただく。パートナーをブロンズ像台座に永久記銘する。

直木三十五に続く顕彰対象の文学者・芸能人としては、例えば近松門左衛門を想定している。大近松に対しての扱いは現在の谷町にある墓石の状況を鑑みていかなものかと思われる。

生國魂神社では境内に浄瑠璃神社があり、近松はじめ文楽関係者が祭祀されている。もちろん竹本義太夫も像がない状態であるから、実現が望ましい。

このふたりに関しては、他府県の顕彰が先行する可能性は大と言える。

3. 誰を顕彰するか？

候補者は数多い。大阪に文学碑はあっても文学者の銅像はほとんどない。芸能関係者もまた然りである。それでも生國魂神社に井原西鶴と織田作之助がすでに顕彰されているありがたい事実がある。直木三十五は生前はその名を知らない人はなかったほどの文名をうたわれた全国的なビッグネームである。しかし、現在は直木賞ばかりが知られ、顔も代表作も知られていない情けない状況になっている。文学碑はあるが、それでは彼の面影は彷彿しないのである。彼こそ顕彰すべき文学者と考える。

直木三十五は生國魂神社の氏子なり

へ寺王天りよ野平

云ふて、忽ち、だから、人間には電氣作用があつて、これが、靈の——と、ついてくる。僕ら、白晝、眼の前へ、幽霊が出たつて信じないが暗室へ人影が現れると、それだけで信じる人がある。軍人に多い。菊花會には、倉田百三氏とか、いろいろな人があつて、百三氏も成田山で斷食してみたり、妙な方へ凝つてゐる。斷食はいふ事だが幽霊なんて、考へるだけ無駄だ。

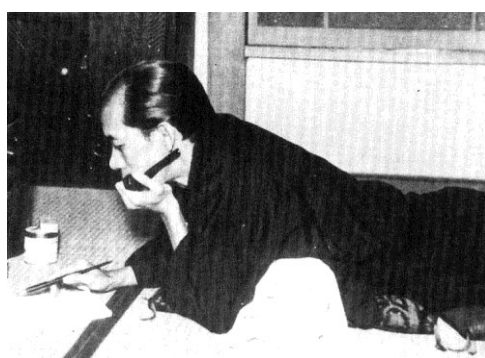
私は、生國魂神社の氏子だが、もう二十年も詣つた事がない。生國魂、吹國魂、即ち、生島、足島の兩神を祭つてあるが、この神は伊邪那岐命の御子である。とにかく、どういふ神が知らぬが、難波大社と稱して、神武天皇御東征の時に、高津の丘の上へ、この神をお祭りになつたのが

直木三十五全集第6巻
大阪物語 269ページ
左から5行目「私は・・・」

生國魂神社との関係があればありがたいので、いろいろと資料を物色したが、なかなか判明しない。それでも作品に藤原家隆の塚の辺りの記述などがあるから、とにかく全集(21巻)をかたっぱしから読みこむことに努めた。『大阪物語』は既読であったので後回しになったが、このフレーズをその時は重要性を持っていなかったの見落としていた。

生家が谷町6丁目付近であるし、居宅が安堂寺町なので、間にいくつも神社がある。まさか生國魂神社の氏子とは思わなかった。これほどはっきり宣言があるなら、生國魂神社の門前に住んでいたという織田作之助に関係性においてはエビデンスでひけはとらないように思われる。

直木三十五執筆スタイル



直木三十五全集別巻 (示人社発行)
グラビアより

『芸術は短く 貧乏は長し』が彼の文学記念碑(横浜市金沢区 富岡)に刻まれたキャッチコピーである。彼は終生、借金に追われており、机、椅子など持っていればすぐに差し押さえられるので、大概はこのスタイルで執筆した。こうした長年の胸部圧迫が死病となる胸部疾患の誘因となったのかもしれない。

銅像造るなら絶対にこのポーズの直木三十五を実現したい！寝像は涅槃像以外あまりないだろうし、奇を衒っても直木なら面白いと思う。ただし、足部分は補充創作していただかねばならない。

大阪の淡路を巡る～名物に潜む淡路島～

山本 伸一

【目的】

2013年（平成25年）4月13日、淡路島で震度6弱の地震が発生。幸いにして死者はでなかったものの、15日には岬町深日港から救援物資を積んだ船が淡路島洲本港に入港し、淡路島側に引き渡された。大阪湾の東西両港を結ぶこのルートで物資が運ばれたのは、1999年（平成11年）に定期高速船が廃止されて以来のことで、かつての友好が活かされた結果であった。大阪～淡路島の定期船は『古事記』にも記されるほどの歴史があり、今日、大阪の文化や名物、名産などとされるものにも淡路島と影響し合って生まれたものが多い。大阪と淡路島、対峙しながらも直接結ばれる定期航路が皆無となった現在、相互の意識の希薄化を食い止める意味でも、「大阪」に見え隠れする淡路島の影響とその軌跡を探り、魅力再発見につなげたい。

【内容】

大阪と淡路島が相互に影響し合って生まれた様々な文化、文物、ゆかりの人物などを紹介する。中でも人形浄瑠璃は、一時危機に陥った際も互いに支え合って乗り越え、全国の人形浄瑠璃でプロ役者のみが演じる団体は、大阪と淡路島だけとなっている。しかし、現在、両者の表立った大きな交流は見えない。大阪においても、人形浄瑠璃文楽の本拠地といつつ、土産物などで文楽に関するものを見ることはほとんどなく、人形浄瑠璃の印象は薄い。大阪と淡路島の重要な役割として、人形浄瑠璃に対する認知度を底上げしていくための連携なども考えられるのではないだろうか。

【結果（今後の考察）】

淡路島からの観光誘客は人口ボリュームからしても経済的メリットは少ない。しかし大阪湾岸という共通項で大阪と淡路島の一体感と回遊性を高めることは、万一の災害時等の支援・協力にも有効に働き、京阪神のくくりとはまた違った視点で、大阪の魅力を再発見できるものがあるとわかったので、今後とも考えていきたい。

（参考）

- ・『浪花百景—いま・むかし—』 大阪城天守閣 1995年（平成7年）
- ・『伝統芸能淡路人形浄瑠璃』 財団法人淡路人形協会編
兵庫県三原郡三原町教育委員会（現・南あわじ市） 2002年（平成14年）
- ・「淡路人形浄瑠璃・引田家資料」 南あわじ市教育委員会所蔵

1. 大阪の名所・名物に潜む淡路島 (一例)

安政年間(1854-1860)出版『浪花百景』の「生玉絵馬堂」(国員画)には、生國魂神社から大阪湾を望み、淡路島まで描かれている。古代、上町台地のすぐ西側までが海で、難波八十島と呼ばれる多数の島が点在していた頃、その島々の向こうに大きく横たわる淡路島は母なる姿を想像させた。国生み神話が島生み神話とされる所以もうなずける。「記紀」には兎寸川(とのかかわ・高石付近か)西の淡路島まで木陰を差すという高木を切り倒して船に仕立て、朝夕その船に淡路島の聖水を積み、高津宮の仁徳天皇のもとへ献じ届けたという記述があり、古代から大阪と淡路島は何か特別な関係を持ち合わせていたのかもしれない。

①「中座」と「芝右衛門狸」

現在、生國魂神社の摂社、源九郎稻荷社に狸が合祀されている。1999年(平成11年)に閉館した中座に祀られていた芝居の神、芝右衛門狸で淡路島洲本の三熊山に棲んでいたとされる。芝居好きの狸で武士に化け淡路島から道頓堀へ芝居見物に通ったが、不審に思った芝居小屋の主人が放った犬に見つかりかみ殺される。これ以後、芝居の客が減り、芝右衛門の祟りだとして芝居の神として祀ったところ客が戻ったという。中座跡は、中座くいだおれビルとなり、くいだおれ人形が立つ。

②「くいだおれ人形」と「人形師、二代目由良亀」

くいだおれ人形の動く仕組みは文楽人形をヒントに製作されたといわれる。淡路人形から文楽人形に移った淡路島由良出身の人形師、二代目由良亀の作。文楽自体も淡路島の植村文楽軒の名に由来する。

③大阪で活躍する淡路島出身者

くいだおれ人形のある道頓堀や戎橋のフレーズが出る大阪メロディーの代表と言えば、海原千里・万里の「大阪ラブソディー」。海原千里は、今は上沼恵美子として大阪のおばちゃんというイメージが強いタレントだが淡路島福良出身。昆布の小倉屋の松原久右衛門・小倉屋山本の山本利助も淡路島出身。

④こだわりの「食」と「淡路玉葱」

551の豚まん・一芳亭のしゅうまい・心齋橋コロッケ・大寅の練り天などに使われる玉葱は淡路玉葱を使うこだわりがある。

このように大阪ならではと思われているものをミナミ中心にみても、その背景に淡路島が潜んでいるものは幅広い。その中で今回は深い関係がありながらも、大阪と淡路の双方が表立って関係性にあまり触れていないと感じている人形浄瑠璃を中心に取り上げる。



①洲本八幡神社の芝右衛門像



①藤山寛美ら寄進の芝右衛門祠(三熊山)



①生國魂神社摂社の源九郎稻荷社



②淡路島に残る由良亀の作品 かしらと由良亀焼印の心串
(南あわじ市教育委員会収蔵庫内にて、山本撮影)



②由良亀製作 くいだおれ太郎
(「くいだおれ太郎のつぶやき」より写真抜粋)

2-1. 大阪でヒットし、淡路島から全国に広めた人形浄瑠璃

現在、全国でプロ役者のみで人形浄瑠璃の定期公演を行う団体は、人形浄瑠璃文楽（(公財)文楽協会・大阪市中央区）と淡路人形浄瑠璃淡路人形座（(公財)淡路人形協会・兵庫県南あわじ市、以下淡路座と略）の2団体のみであり、全国各地に地域の伝統芸能として伝わる人形芝居の多くは、文楽系、淡路系に大別される。

文楽という名称は、淡路島仮屋から大阪に移住した植村文楽軒の一座に由来する。大阪では竹本義太夫の義太夫節と近松門座左衛門の作品を取り入れた人形浄瑠璃芝居がヒットし、竹本座と豊竹座などが競合、派生、盛衰を経て文楽座が中心的存在となり人形浄瑠璃そのものを文楽と称するようになった。一方、淡路島は、西宮神社に属した人形操りによる神事を行う傀儡師や戎かきが淡路島を拠点に独立。1570年（元亀元年）、淡路島の引田淡路掾が宮中で三社神楽（式三番叟）を奉納し、繪旨を賜ったのを淡路人形の起源とする。この繪旨は淡路の人形遣いが全国を巡ること可能にし、のち大阪でヒットした人形浄瑠璃を取り入れた巡業する形式の座へと変化。大阪以外の地方の人々へも大阪で人気の人形浄瑠璃を披露することとなる。

享保年間(18世紀)には淡路島に40以上の座元が存在し、地元淡路島にあまり滞在することなく全国を巡業する。現在の淡路人形座は唯一残った吉田傳次郎座の流れを汲むものである。天保改革（1842年）期には興行が制限され、大阪では多くの文楽役者が失業に見舞われるが、淡路座は阿波徳島藩の保護政策もあって影響少なく、追抱（おいだき）と称した特別出演で文楽の役者を抱えた。

また大阪空襲で多くの人形や道具を焼失した文楽座に100体余りの人形と衣装を無償貸出して公演断絶を救ったのが淡路島洲本の医師、松谷辰造。二代桐竹紋十郎に師事し、復興のため精力的に人形製作に取り組む大江巳之助の若き時代の後援者でもあった。

このように、大阪と淡路島が影響し合って拡大し、時として危機を乗り越え支え合ってきたものは、人形浄瑠璃に象徴されるといっていい。

2-2. 地域に根付く淡路人形浄瑠璃

特に外国人客の多い土産物店で、歌舞伎グッズを見かけるようになったが、文楽グッズは本拠地大阪であってもほとんど見かけない。これは広域的で相乗的な効果が予想されるにもかかわらず、文楽が他の人形芝居全般と結びついていないからではないか。私自身、大阪で生まれ育ったが、大阪で文楽に触れたことがなく、淡路島に移り住んで触れた淡路人形浄瑠璃から大阪の文楽を意識するようになった。

淡路島、特に南部地域では、春のだんじり祭り（といっても淡路島のだんじりは、大阪で言う布団太鼓。地車ではない）で「だんじり唄」という唄を披露する。「だんじり唄」として口ずさんでいるのは浄瑠璃の一節。各々の祭礼団が「義経千本桜」などの浄瑠璃作品からの抜き出しを20分近く、各々異なる節を順番に半日以上はかけて語る。この地域では保育園児の頃から、浄瑠璃と意識せずとも、浄瑠璃をだんじり唄として習う。私は淡路島に来るまで淡路人形浄瑠璃さえ知らなかったが、ここは好きも嫌いも浄瑠璃があるのが普通の存在で、子供会、小中高校、社会人に至るまで人形浄瑠璃のクラブがあり、世代や市域を超えた広がりを持つ。大阪市内にも高津小学校に文楽のクラブがある例もあるが、学校単体での取り組みであり、地域全体に広がっている活動ではない。昨年、淡路人形協会が南あわじ市内の小中学生に対して行ったアンケート調査によると、淡路人形浄瑠璃を人形座の舞台で見たことがあると答えたのは、小学生で約3割・中学生で約5割もある。ここから、淡路島南部地域は親子も関係なく、人形浄瑠璃に触れる機会が多い、特異な地域であると思われる。

2-3. 人形浄瑠璃の認知度向上に向けた提言

その一方で、かつて淡路座が巡業した大阪以外の地域とは現在も交流が行われているにもかかわらず、文楽とは大きな交流もなく、淡路座、文楽ともにテリトリーにこだわり、人形浄瑠璃全体として広域で盛り上げる機会を失っているように思えてならない。一個人としては文楽が好きで大阪に鑑賞に行く淡路島民も多いと思うが、兵庫県が提唱する人形浄瑠璃街道は、阿波～淡路島～西宮止まり、全国人形サミットを開催しても文楽の参加がなく、淡路人形のサポーターなどが関係する文化団体は淡路座や兵庫県への遠慮からか、団体で文楽鑑賞には行かない雰囲気もある。一方、文楽側でも国立文楽劇場常設展示室に淡路島との関係に触れる展示さえない状態で、文楽と淡路座はまるで本家か元祖かで袂を分けた老舗ようになってしまっている。補助制度の仕組みなどによる行政の枠もあろうが、文楽、淡路座双方とも経営が安泰ならともかく、座元自体同士が交流を持つ動きをみせないそれぞれのサポーター同士の交流も難しく、人形浄瑠璃全体としての認知度底上げにもつながらないのではないかと考える。

3. 大阪(岬町深日)～淡路島(洲本) 航路 復活を機に交流連携を

2014年(平成26年)、岬町が1999年(平成11年)に廃止された深日～洲本の高速船航路を、今後復活させる方針を示した。既に和歌山の観光協会などが淡路島に向けて友ヶ島などへの観光客誘致を図る動きをみせているが、大阪側からのアプローチはまだ聞かない。友ヶ島と淡路島では戦前の由良要塞などのつながりがあるが、大阪と淡路島では、人形浄瑠璃を絡めた連携で相互の誘客を図ってみてはどうか。

南海電鉄汐見橋駅改札口に昭和30年代の沿線観光案内図が当時のまま掲げられている。損傷激しく読みづらくなっているが、当時は淡路島・徳島方面航路との接続路線であったため、淡路島・徳島も沿線として、淡路島には淡路鉄道の路線も描かれている。淡路鉄道(現 淡路交通(株)の前身)は、1922年(大正11年)から1966年(昭和41年)の廃止まで淡路島洲本を起点に運行され、南海線とは洲本航路を挟んで結ばれていた。1948年(昭和23年)には電化が完成し、南海電鉄の車両を導入した。

淡路鉄道電化完成時、洲本駅で記念祝賀会が催され、人形浄瑠璃が披露された。その人形遣いの一人が文楽で女方一筋として現在も活躍する桐竹紋壽(もんじゅ)(1934年(昭和9年)洲本生まれ)である。幼い頃から淡路人形浄瑠璃に触れ、淡路島の小林六太夫座により設立された淡路乙女座の初披露がこの祝賀会だった。1930年(昭和5年)、桐竹智恵子に始まる大阪乙女文楽座が一人遣いに対し、淡路乙女座は、伝統の三人遣いを保持し、女性と未成年男子のみで演じた。唯一の男子がのちの紋壽氏であった。折しも淡路鉄道電化と同年、松竹直営だった文楽は組合側と分裂し、組合側の三和会に属する二代桐竹紋十郎の一座が引越興行として洲本玉尾座で出張公演を行った。1950年(昭和25年)、紋壽氏は紋十郎の誘いで入門、文楽に移る。のち一時、父親の友人が淡路交通社長という縁で「洲本駅の駅ビル屋上に人形舞台を作る」と誘われ淡路交通に勤務するが続かず、再び紋十郎の元へ戻る。

ここ数年、文楽でも淡路座でも早替りなど途絶えた技芸の復活がある。早替りは、舞台上で御簾などに一時隠れた人形と人形遣いの衣装が出てきたときに変わっているという瞬時の芸。文楽座では1892年(明治24年)を最後に途絶え、淡路座では遅くとも1957年(昭和32年)頃まであったとされる。淡路座でのみ残っていた時の早替りを見ていたのが紋壽氏であり、淡路座で早替り復活指導にも当たった。

4. 交通手段の「早替り」「復活」による、関係強化を

そこで人形浄瑠璃の「早替り」「復活」に掛けて、交通手段も「早替り」「復活」で連携してはどうか。

2014年(平成26年)、三回目を迎えた「深日港フェスティバル」で一日だけの深日～洲本航路復活があった際、廃止前の航路を知る淡路島民からは「遠足や子供会でみさき公園に行ったなあ」という声が聞かれた。淡路島・岬町間は陸路では大阪湾をほぼ一周するため、片道3時間半程度かかり、そこまでかけてみさき公園に行くことはなくなっていたが深日航路の「復活」でみさき公園も日帰り目的地として「早替り」するだろう。

また、文楽劇場も近い難波から、深日港まではかつての淡路連絡急行「淡路号」を「復活」させれば、淡路島ルートに「早替り」する。列車名称は「淡路号」の名にこだわらず、大阪と淡路島に繋がりのあるくいだおれ太郎や芝右衛門狸に関連した名称を付けてもよい。人形浄瑠璃を沿線住民や鉄道ファンなどに広めるためにも、車両や船にこれらの人形が乗り込み、到着先の各地での文楽と淡路座のリレー形式の競演や追抱(特別出演)を復活させることが考えられる。

これらの取組みが実現すれば、両サポーターや人形浄瑠璃クラブの交流が生まれ、人形浄瑠璃を通して結ばれることで、他の分野でも大阪と淡路島が相互影響し合いながら、各々の魅力を再発見する一助となることを期待したい。

祝言		大入叶		千秋楽	
玉藻前	呼物早替り	播州皿屋敷	呼物早替り	忠臣蔵五段目	呼物早替り
八世松田有	八世松田有	千本柳下	千本柳下	山六	山六
伊藤屋清	伊藤屋清	三郎七郎	三郎七郎	利生	利生
谷三郎	谷三郎	三郎七郎	三郎七郎	利生	利生
源氏旗揚	源氏旗揚	源氏旗揚	源氏旗揚	源氏旗揚	源氏旗揚
一、式三番	一、式三番	一、式三番	一、式三番	一、式三番	一、式三番
二、式三番	二、式三番	二、式三番	二、式三番	二、式三番	二、式三番
三、式三番	三、式三番	三、式三番	三、式三番	三、式三番	三、式三番

1935年(昭和10年)
南地演舞場にて
淡路島の小林六太夫座が興行
早替りが淡路座だけに残っていた
時期のもの
(南あわじ市教育委員会蔵)

西成レトロまちめぐり ―西成区の南東部を訪ねて―

中塚 義隆

【目的】

西成区域の路地をはじめ、観光の対象となりうるレトロな風景、案内したい風景を探し出し、観光の可能性を見出すこと、西成区域にも景観がよく、情緒のあるところをアピールすること、また、まちめぐりのコースを作ることを目的とする。

【内容】

今回の調査は、南は住之江区との境界である南港通りから、北は南海本線天下茶屋駅の北側の通りまで、東は聖天山公園から帝塚山までの上町台地の西端、西は、阪神高速道路堺線（十三間堀川跡）沿いまでの区域を対象としている。

まちめぐりについては地域的なつながり、地理的な側面、案内のしやすさといった面を考慮し、玉出、千本、天神ノ森・天下茶屋南部の三つの地域に分け、地域ごとに目について風景の内容を整理し、これをもとにまちめぐりのコースを作成した。



―今回の調査対象区域―

【結果】

1 提案コース

- ①蔵のあるまち・玉出 玉出全体で11の蔵が見られ、蔵を経由してまちをめぐる。
- ②路地と長屋のまち・千本 路地が多く、戦前の長屋も残り、レトロ感のある長屋を中心にまちをめぐる。
- ③景観と歴史のまち・天神ノ森から天下茶屋 景観に優れ、落ち着いた佇まいが見られ、建物にも魅力がある。寺社には歴史が感じられ、のどかな阪堺線を組み合わせてまちをめぐる。

2 今後の考察

昨年度は研究員として「だいがくと凧のまち勝間千軒」と題し、勝間村の歴史と文化を調べ、勝間凧の復活に取り組むとともに、「大阪あそ歩」でガイドを始めることとなった。今回の調査では地域をくまなく歩き、「こんなところがある、こんなものがある」と様々な風景を発見する喜びを感じた。このことは地域を案内する際の対象の拡充につながり、訪れる方々にまちめぐりを楽しんでいただけるようにしていきたい。

1 観光の素材

路地はその両側に家が建ち並び、子どもの格好の遊び場で、住む人の間につながりが感じられる空間である。植木鉢、お地蔵さん、駄菓子屋などがあつたりして、懐かしさ、温もりが感じられ、心が落ち着き和むような雰囲気の中で、大阪のみならず、日本の良さを伝えるところである。

このような情緒のある路地巡りに観光の可能性を見出すべく対象となる路地を探してみたところ、風情を感じさせる路地やお地蔵さん、井戸のポンプなど往時の生活を思い起こさせるものも見られ、これらとともに古い建物や希少になってきていると感じさせるものなどにも観光の可能性を見出すこととし、目についたレトロな風景を観光の素材として選び、まちめぐりコースを設定をすることとした。

2 調査の状況

(1) 路地

調査した路地の数は61か所、町名別の内訳は表1のとおりである。

なお、実際に調査の対象とした路地は、主として住む人の用に供する幅員4mに満たない細街路で、通り抜け、車の進入が可能なものを含んでいる。

(表1 調査対象路地 町名別内訳)

玉出	13	岸里・岸里東	1	天神ノ森	7
千本	30	潮路	5	天下茶屋南部・聖天下南部	5

(2) 路地以外

路地以外で目についたものとしては、蔵、檜皮壁や銅壁、タイル壁、板塀など建物に関連するもので、これらにレトロさを感じた。路地以外で目に付いた箇所は143か所、内、戦前の建物93か所、蔵21か所(戦前の建物と重複6か所)、その他35か所で、町名別にみると表2のとおりである。

(表2 路地以外の対象風景 町名別内訳)

玉出	47	岸里・岸里東	8	天神ノ森	19
千本	47	潮路	3	天下茶屋南部・聖天下南部	19

3 選択した風景

目についた風景204か所からまちぐりの対象となる風景128か所を選び、これを地域的なつながり、地理的な面、案内ルートの構成といった面を考慮し、玉出、千本、天神ノ森・天下茶屋南部の三つのエリアに分けてまちをめぐらる。千本には潮路・岸里を含み、天神ノ森・天下茶屋南部には岸里東・聖天下南部を含む。

三つのエリアごとにその内容を整理すると後出の表3のようになった。

4 まちめぐりのコース

表3から浮かぶまちの特性を考慮し、まちめぐりの名称とコースを作成する。

①玉出

玉出東は上町台地の西端に接し、崖の上下の対比も見もので崖下の長屋や有名な坂もある。玉出東、玉出中は明治40年の南海本線玉出駅設置以後、住宅開発が行われた区域で、戦災を免れ、蔵なども残り、玉出中は勝間街道が通り、付近に風情を感じる建物や長屋が見られる。玉出西は勝間村の環濠集落があったところであるが、戦災に遭い、古くからの住宅が焼失し、区画整理が行われ、十三間堀川も埋め立てられたが、赤壁の建物や川端の長屋に往時の面影を留める。

蔵の数が11と他の素材に比べて多いことから、まちめぐりのコースの名称を「蔵のあるまち玉出」とする。コースの概要は次のとおり。

阪堺線塚西駅→<玉出東>50軒長屋→久保田の坂→虫籠窓の建物→<玉出東・中>蔵→路地と長屋→<玉出西>赤壁の建物→十三間堀川の川端長屋→地下鉄玉出駅



②千本 (潮路・岸里を含む)

このエリアは戦前の長屋も多く残り、落ち着いた雰囲気を感じさせる所も見られる。これらの長屋は南津守方面に工場が立地し、工場へ通う勤労者の住宅として開発されたと聞く。潮路ではズレのある路地が見られ、千本北は路地に1階建ての長屋が多く、また、お地藏さんや井戸ポンプなど懐かしい風景が往時の生活をしのばせる。千本南には2階建ての長屋も見られ、岸里とともに天龍大神の祠もあり、喜劇俳優曾我家五郎の名前が書かれた玉垣もあって興味を引く。千本は戦災を免れた地域で、区画整理も行われていないことがレトロ感をかもしだす。

選択した路地の風景が17か所、路地に関連する風景が14か所あることから、コースの名称を「路地と長屋のまち千本」とする。コースの概要は次のとおり。

地下鉄岸里駅→<潮路>ズレのある路地→<千本北>1階建て長屋→懐かしい路地の風景→<千本南>2階建て長屋→<千本南・岸里>天龍大神の祠→地下鉄岸里駅



③天神ノ森・天下茶屋南部 (岸里東・聖天下南部を含む)

この地域は景観に優れ、静かな佇まいの落ち着いた雰囲気を感じさせる所が見られる。地域内には珍しい銅壁の建物が見られ、洋風な建物や檜皮壁の建物も見られる。また、紀州街道が南北に通り、天下茶屋や天神ノ森天満宮、聖天山正圓寺など歴史が感じられる地域でもある。阪堺線がこの地域の雰囲気とあいまって市内とは思えないローカルな風景を見せてくれる。

優れた景観と歴史が感じられる神社等もあることから、コースの名称を「景観と歴史のまち天神ノ森から天下茶屋」とする。コースの概要は次のとおり。



阪堺線天神ノ森駅→<天神ノ森>建物の風景→<岸里東・天神ノ森>阪堺線の風景→天神ノ森天満宮→銅壁・檜皮壁の建物→<聖天下>聖天山正圓寺→<天下茶屋南部>銅壁・檜皮壁の建物→北天下茶屋商店街→阪堺線北天下茶屋駅

5 今後の課題

玉出では11の蔵を発見したことは驚きであった。千本では1階建ての長屋が多くみられ、風情を感じた。天神ノ森・天下茶屋南部では静かな佇まいや銅壁の建物を見つけたこと、阪堺線の風景に安らぎを覚えたことが印象に残る。

一方で長屋等は老朽化し、こうした風景は損われ、また、祠のいわれなどについて聞き取ることができなかつたように、「近い過去」のことも伝わっていないことを痛感した。今後、目についた風景について聞き取りなどの調査を続け、「近い過去」を伝える努力をし、まちめぐりを通じて愛すべき風景を紹介していきたい。

(表3 選択した風景 エリア別内訳)

	玉出	千本	天神ノ森・天下茶屋南部		玉出	千本	天神ノ森・天下茶屋南部
路地の風景				路地に関連する風景			
長屋	7	14	1	お地藏さん		5	2
ズレのある路地		3		井戸ポンプ	2	3	
小計	7	17	1	祠	1	2	2
建物に関連する風景(路地以外)				その他風景			
景観		2	4	縁台		1	
長屋	2	1	1	雨戸		1	
蔵	11	2	8*	ガラス戸		1	
洋風建築			3	石畳	1	1	
銅壁			3*	小計	4	14	4
檜皮壁	1		5	その他風景			
赤壁	1*			阪堺線			4
タイル壁	2	2		崖と坂	1		2
レンガ壁	1			碑	1		
塗籠軒	1			寺社	1		3
虫籠窓	2*			道	1		3
板塀		3	2	お地藏さん	2	1	
(*重複)				商店街			2
小計	20	10	25	南海汐見橋線		3	
全体合計	37	47	44	風呂		1	
				公衆電話		1	
				小計	6	6	14

(参考文献)『まち路地再生のデザイン』宇杉和夫他(2010)、『路地からのまちづくり』西村幸夫(2006)、『路地研究』上田篤他(2013)、『大阪 新・長屋暮らしのすすめ』橋爪紳也編(2004)、『まちに住まう・大阪都市住宅史』大阪市都市住宅史編集委員会編(1989)

鉄道で栄えた街『京橋』の観光活性

西本 広光

【目的】

大阪では昔から誰もが知っている京橋、J R大阪環状線や京阪電車が目に浮かぶ大阪のヒガシとも呼ばれる玄関口である。駅も街も昭和の匂いが漂うエリアであるが、昨今、大手旅行者や地図業者が発刊する観光ガイドブックの記事、紹介からその存在が外れつつあり、観光で大阪へ来る旅行客も京橋への訪問、滞在は少ない。地元大阪でも疎遠になりつつあると思われる。市内キタ、ミナミ、天王寺地区でのあいつぐ大型商業施設・街開発やU S J、海遊館といったメジャーなレジャー集客施設に目を奪われがちであるが、大阪の色が濃く、大阪ヒガシ地区の拠点として関西でも有数の鉄道ターミナル駅である京橋の街が賑わい、周辺の観光エリアの起点となって一体化していくことが、ひいては大阪観光の活性化に繋がると考え、同地域の活性化に向けた提言を本研究の目的とする。

【内容】

元々、京橋とは江戸時代に大阪城北西詰めに架橋された公儀橋であり、京橋駅から約2キロメートル西に離れた場所に存在する。現在、京橋と呼ばれるエリアは鉄道敷設によって命名されて栄えてきた街である。研究はまず、京橋駅周辺及び近隣の観光及び飲食、ショッピングエリアなどを考察して京橋の魅力を確認する。又、京橋は大阪における人気観光地である大阪城に近いのに、観光活性のアドバンテージを十分活かしていない。例えば京橋から大阪城が見える場所は、一部の建物の上階を除いて多くはなく、また大阪城を訪れる人々の最寄りの駅とは言い難いのが実状である。以上を踏まえて、京橋周辺から南へ大阪ビジネスパーク、そして大阪城につながる一帯を見て歩き、今後考えられる計画や自分なりの想いを含めて、鉄道及び行政、民間、観光関係者の皆様に、これからの京橋の観光活性化の提言を行う。

【結果】

現在、J R西日本が計画を進めている“大阪環状線改造プロジェクト”や“おおさか東線の新大阪駅方面延伸建設”などは、まさにエリア活性化への追い風となる。何よりも京橋は鉄道で栄えた街である。京橋周辺街スポットだけの観光活性は難しいが、今後も鉄道、駅施設を含めた再開発により、過去定着しなかった大阪ヒガシの呼称でなく、京橋の名前をブラッシュアップさせて、京橋を起点に特に大阪城周辺に至る街作り、観光活性化につなげて欲しい。

1・はじめに

大阪では『きょうばし』(尻下がり)、東京では、『きょうばし』(尻上がり)。大阪の京橋は鉄道で栄えた街であり、全国でも有数の交通ネットワークを持つエリアであるが、エリア呼称の京橋と現在ある橋とは離れた位置関係にある。明治時代にJ R大阪環状線の前身である大阪鉄道城東線の駅として、現在の位置に京橋が誕生して繁栄してきた。ただし京橋と言う正式な町名は現在ない。



【図1】京橋の周辺位置図



J R京橋駅



京橋

2・京橋周辺について

京橋は昔から大阪の「ヒガシ」とも言われるが、呼称は定着していない。京橋駅周辺の街全体は、鉄道ターミナル駅、ショッピングモールを中心に大阪特有とも言える多くのアーケード商店街が存在し、主に飲食、娯楽店で構成されている。昭和の匂いが漂う街ではあるが、人の往来も多く老若男女で賑わい、大阪市内のターミナル駅としては十分な存在感はある。J R、京阪電車、地下鉄が集まり1日の乗降客数が約50万とも言われ、駅を利用する人数でも、関西では4番目規模の大きな駅である。

街の魅力や観光の起点としてはどのような現状であるかを考察する。京橋駅周辺及び近隣の施設、観光名所としては、少々離れている地区も含めると大阪のヒガシの名前に恥じないくらいの規模は十分ある。

(1) 集客力、知名度大

①京阪モール、②J R京阪駅前広場、③京橋コムズガーデン、④ダイエー京橋店、⑤大阪城ホール、⑥大阪城公園、⑦大阪城

※集客力は小さいが、知名度抜群としてご存じ、京橋グランシャトービルがある。

(2) 集客力、知名度中

①京橋駅周辺各商店街(ビギン商店街のレリーフ、真実の口)、②商店街にある大阪のうまいもん、食べもの屋数々、③K i K i京橋、④羅い舞座(らいぶざ)京橋劇場、⑤

Kぶらっと、⑥大阪ビジネスパーク接続ペデストリアンデッキ（雨の日も濡れない）、
⑦大阪ビジネスパーク、⑧大阪水上バスアクアライナー・大阪城港

（3）集客力、知名度低

①京橋（本当の橋）、②寝屋川、③藤田美術館、④太閤園、⑤大長寺

3・京橋の課題

上述した施設、観光名所など一見すると街は活気があって人の往来も多く、後背に観光名所もある現状であるが、取り巻く現実には厳しい。観光地としての紹介としては、現状記載、紹介から外れるケースが見受けられる。大手旅行、地図会社が発刊する『るるぶ』、『まっぷる』といった雑誌から既に京橋単体の案内は消えつつある。かろうじて、『るるぶ』で大阪ビジネスパークや大阪城とのひとくくりの中で、近隣として紹介が散見されたが、取扱内容は極めて小さい。



【図2】情報誌の示す観光案内範囲（例）

単体の街紹介としては近隣の鶴橋（焼肉の街、コリアタウン）、天満（天神橋筋商店街）にも劣る。又、京橋との絵が実に良く似合うJR大阪環状線も老朽化が進み、ようやく新規プロジェクトが始まり改修されているが、京橋の街を支えてきた商店街やダイエーの活気には陰りが見える。若い人は比較的多いものの若者の集客定番であるシネコンや文化公演施設等もない、又、JR東西線、学研都市線が南北を遮り、大阪城が近いながら大阪城が見えない平面的市街、水の流れが少し悪く少し濁った寝屋川あたりは残念なところである。街として整備は停止状態である。

4・京橋活性化に向けて

京橋駅周辺は大阪市内の大きな街としては最後まで取り残された未整備エリアであるが、考察の結果、周辺スポット単体での観光活性化は難しいと考えられる。近年人気度上昇の大阪城、今後開発が期待される森ノ宮、玉造地区方面と一体となり、京橋を世間に広くPR・ブラッシュアップしていくことが重要である。京橋観光活性化の鍵は、リニューアルされるJR大阪環状線や大阪城へ向かう、また大阪城から戻るルートの開拓などが不可欠である。目指すは、『鉄道により人を集客し、大阪城が見える最寄りの駅・街、京橋』を提言する。一般市民からも、おおさか東線全線開通後の北方面乗入れや駅の南下・地下化など多くのアイデアが出されている。京橋駅から南方面は比較的休遊地も多く、また大阪城に向けて視界が開けており開発の実現性はある。



駅南方面



京橋から見える大阪城



環状線新型電車予想

【図3】鉄道、街プロジェクト提言、大阪城へ繋がる京橋

まずJR西日本、大阪市、大阪府の関係者へ提言は、上記図3に示すとおり①現在、寝屋川により分断されている南方面へのアクセスとして京橋駅のホームを南へ延伸して大阪ビジネスパーク、大阪城方面への連絡口を設けて便利にする、②大阪淀川北岸のエリアから京橋、大阪市内中心へ直接訪れやすくなるように沿線の地下化で、新線を敷設しておおさか東線と学研都市線、東西線を接続する。電車で京橋へ訪れる人は増えていく、③京橋と言えば何と言ってもJR大阪環状線、電車が似合う街である。南へ延伸した駅舎から次の大阪城公園駅までは、ほんの数百メートル、オープンデッキで連結し、大阪城や電車を見ながらの散策を可能とする。電車が好きな家族連れ、観光客にも十分受け入れられると思う。JR大阪環状線沿線の魅力スポットになる。

そして京阪電車、民間関係者への提言は、④大阪城が見える京橋の街作り、ダイエー京橋店の今後の改修や、天王寺には負けない京阪電車主体のプロジェクトを期待する。

最後に行政、観光関係者への提言は、⑤京橋からは、大阪ビジネスパークや大阪城方面に向かう遊歩道の整備や目立つ案内板、地図看板を作成・設置して欲しい。今後京橋は、大阪北東部の玄関口として観光活性化を遂げていこう。例えば大阪城は京橋方面から向かい青屋門、極楽橋（北口）から入退場したら入場料200円引きするなど、集客を意識したおもしろい企画が目につく。京橋の未来が楽しみである。

【参考文献、引用】

- ・ JR西日本ニュースリリース 2014年12月8日
- ・ るるぶ、まっぷる（2014年発刊号）
- ・ 2014年12月9日大阪市／建設事業評価有識者会議
（JR東西、学研都市線連続立体交差事業再評価調書見直しについて）

トンネル扁額で巡る大阪の鉄道史

村田 幸雄

【目的】

鉄道トンネルの扁額には、トンネル建設責任者の鉄道経営に対する思いの字句が揮毫されている。初期の鉄道トンネル扁額には、トンネル完成の喜びの字句が、その後の扁額には、トンネル建設の意義、揮毫者の経営観等が文字で書かれており、鉄道史の上で興味深い資料である。

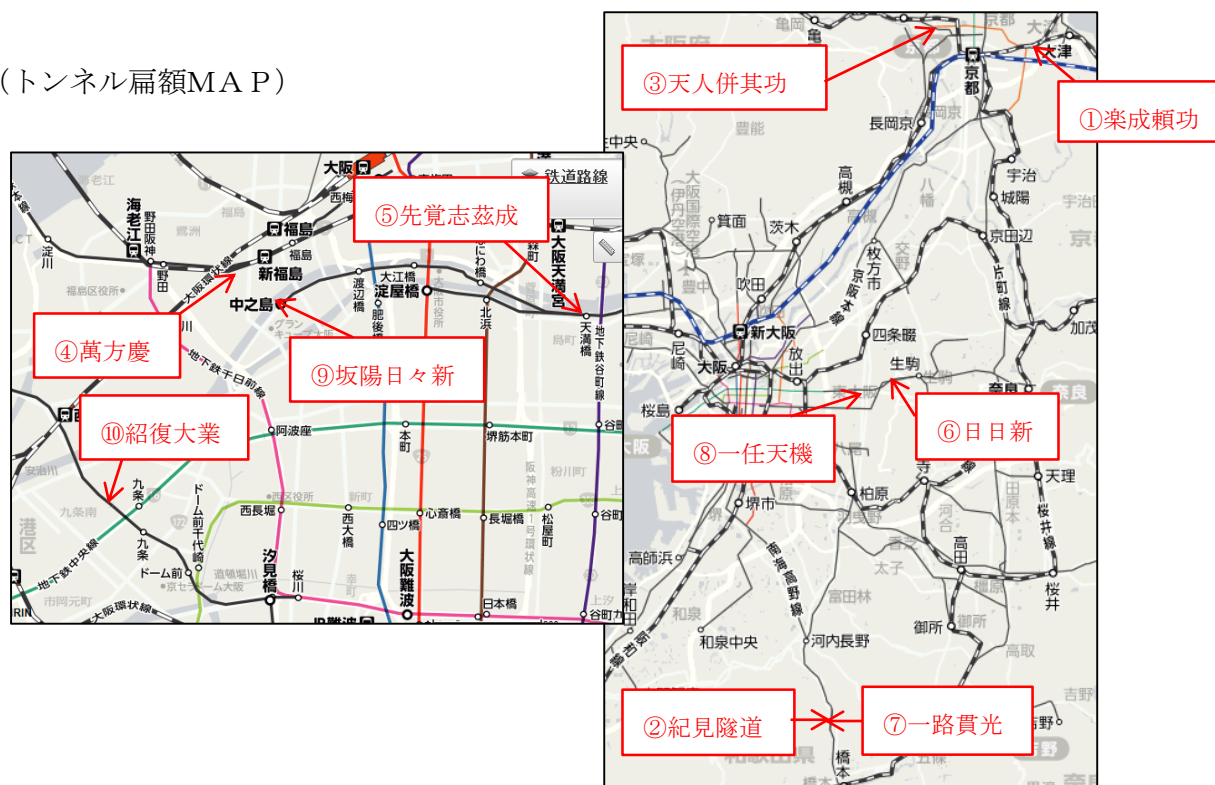
昨今の鉄道人気で、鉄道遺産が観光資源として注目されているが、鉄道遺産といえは古い駅舎・橋梁・高架橋・トンネルが取り上げられ、トンネル扁額は注目されていない。

「大阪のトンネル扁額」に注目し、「トンネル扁額」から大阪の鉄道史を振り返り、「大阪のトンネル扁額巡り」を提案したい。

【内容】

大阪近郊の「トンネル扁額」について、大阪の鉄道史の流れを踏まえて、揮毫者、出典、扁額の字句の意義、を紹介した。又、これらの扁額巡りのモデルコースを提案した。

(トンネル扁額MAP)



【結果】

今回は、大阪近郊の特に重要なトンネル扁額を取り上げたが、大阪近郊にはまだ多くのトンネル扁額が存在する。今後は、それらも含めて、トンネル扁額を鉄道遺産の重要な素材として紹介したい。

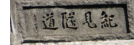
○大阪近郊の鉄道トンネル扁額

(1)鉄道開業の時代のトンネル扁額



①「楽成頼功」

(2)五大私鉄の基礎づくりの時代のトンネル扁額



②「紀見隧道」



③「天人併其功」

(3)私鉄の大阪都心乗り入れに関するトンネル扁額



④「萬方慶」



⑤「先覚志茲成」

(4)輸送力増強の時代のトンネル扁額



⑥「日日新」



⑦「一路貫光」

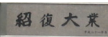


⑧「一任天機」

(5)第3セクターによる新線建設に関するトンネル扁額



⑨「坂陽日々新」



⑩「昭復大業」

(1)鉄道開業の時代のトンネル扁額

・官設鉄道

- 明治5年 日本で初めての鉄道が、新橋～横浜間に開通。
- 明治7年 大阪～神戸、開通。
- 明治10年 大阪～京都、開通。
- 明治13年 京都～大津、開通し、順次鉄道網が整備。

・鉄道トンネル

- 明治4年 大阪～神戸間の天井川であった石屋川に、日本初の鉄道トンネルが、外国人技術者によって建設。
- 明治13年 京都～大津間の逢坂山トンネルが、初めて日本人技術者のみで完成。

①旧東海道本線・逢坂山トンネル

「楽成頼功」 三条実美（明治13年）



- 明治13年、京都～大津間の逢坂山トンネル建設時に、太政大臣・三条実美により揮毫。太政大臣が揮毫していることで、工事の重要性が分かる。
- 明治庚辰七月／三条実美の署名。
明治庚辰七月は、明治13年7月のこと。
- 「日本人の技術でこのトンネルが楽(落)成」
落は落盤に通じるため、楽に置き換えられている。
逢坂山トンネルは、日本人技術者による初めてのトンネルで、完成を喜ぶ表現になっている。

(2)五大私鉄の基礎づくりの時代のトンネル扁額

・明治14年 日本鉄道が設立。

日本で初めての私鉄。半官半民の会社。
現在のJR東北本線、高崎線、常磐線等の前身。

・明治18年、難波～大和川間、阪堺鉄道が営業開始。

阪堺鉄道は日本で最初の純民間資本の私鉄。
阪堺鉄道の成功が鉄道ブームを引き起こした。

・明治20年代 関西鉄道、大阪鉄道、西成鉄道、高野鉄道等設立。

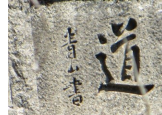
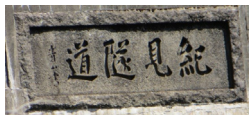
関西鉄道、大阪鉄道、西成鉄道は後に国有化。高野鉄道は南海鉄道に吸収。

・大阪の五大私鉄は明治末期から大正初期にかけて開業した。

明治36年、南海鉄道(南海)、難波～和歌山間を全通
明治38年、阪神電気鉄道(阪神)、出入橋～岩屋
明治43年、京阪電気鉄道(京阪)、天満橋～五条
明治43年、箕面有馬電気軌道(阪急)、梅田～宝塚、石橋～箕面
大正3年、大阪電気軌道(近鉄)、上本町～奈良

②南海高野線・紀見トンネル

「紀見隧道」 根津嘉一郎(大正3年)



- 大正3年、高野登山鉄道が河内長野～橋本間の紀見トンネルを完成時に、社長・根津嘉一郎により揮毫。
- 署名の青山は根津の号。根津の屋敷が東京青山にあり、青山を号とした。
- 根津は、東武鉄道・社長で、高野登山鉄道の社長から南海鉄道の会長に。
- 根津の鉄道経営に対する基本方針は、「鉄道は延長しなければ儲からない」。
- 経営不振の東武鉄道を路線延長、日光・鬼怒川温泉の観光開発で再建。
- 南海高野線が全線開通出来たのは根津の功績。
- 経営不振の高野鉄道を引継ぎ、沿線の観光開発で再建。高野登山鉄道、南海鉄道の経営者として高野線を全通させた。
- 高野鉄道(明治33年、汐見橋～河内長野開通)、高野登山鉄道(大正4年、汐見橋～橋本開通)、南海鉄道(昭和5年、汐見橋～高野山全線開通)

③阪急京都線・西院地下トンネル

「天人併其功」 太田光熙(昭和6年)



- 昭和6年、京阪電鉄・新京阪線の西院～大宮間の地下線開通時に、社長・太田光熙により揮毫。
- 「天の力と人の力が合わさって成し遂げられた」
関西で初めての地下トンネルの完成を喜ぶ表現。東京地下鉄は昭和2年(浅草～上野)、大阪地下鉄は昭和8年(梅田～心斎橋)
- 太田は京阪電鉄の社長時代に、新京阪線の建設、和歌山、滋賀に営業拠点を拡大、名古屋までの鉄道路線を計画等、京阪王国を形成。
- 戦時体制下の昭和18年、京阪は阪急と合併し、戦後分離。
分離の際、新京阪線は阪急に引き継がれた。京阪にとっては不本意な結果。

*トンネル建設のリスクが大きい時代で、扁額の字句はトンネル完成を喜ぶ表現。

(3)私鉄の大阪都心乗り入れに関するトンネル扁額

- ・明治36年、大阪市電開通(花園橋～築港)。
- ・大阪市は市内に市電網を構築し、「市内交通市営主義」の方針。
- ・大阪市は、戦前戦後を通じて、私鉄各社の市内都心部への乗り入れ計画を排除したが、乗り入れを果たした私鉄の扁額を紹介。
- ・1960年代以降、市内交通事情の悪化と市財政の負担増等で、大阪市は、私鉄の都心乗り入れを順次認可するようになった。

京阪 昭和38年 天満橋～淀屋橋
 阪急 昭和44年 地下鉄堺筋線乗り入れ
 近鉄 昭和45年 難波乗り入れ
 近鉄 昭和60年 けいはんな線が地下鉄中央線乗り入れ
 京阪 平成20年 中之島線開通
 阪神 平成21年 なんば線開通

④阪神本線・福島地下トンネル

「萬方慶」今西與三郎(昭和14年)



- ・昭和14年、大阪駅前地下線建設時に、社長・今西與三郎により揮毫。
- ・「全ての人が慶ぶ」
 出典は、書経の一節「爾惟徳罔小 萬邦惟慶」。
 (君が徳を行えば、それがどんなに小さなことであっても、天下の万国は、それを頼りにして慶ぶ)
- ・原典の「邦」を「方」に替えている。
- ・西梅田から現在の梅田駅までのわずか800mの延長で、市営地下鉄、国鉄、との連絡の利便性が向上し、新梅田駅の拡張で輸送力の向上がはかれた。地上にターミナル百貨店建設用地を確保。この工事が「利用者にとっても阪神にとっても喜ばしいことであった」ことを表現している。

⑤京阪本線・天満橋駅

「先覚志茲成」村岡四郎(昭和38年)



- ・昭和38年、天満橋～淀屋橋間の地下鉄線が開通時に社長・村岡四郎が揮毫。
- ・「先輩達の宿願(大阪都心部への乗り入れ)をやっと達成出来た」
- ・京阪は大阪・高麗橋を始点とする路線特許を取得し、会社創立。大阪市の市内交通市営主義に阻まれ大阪側始点を天満橋に後退し明治43年営業開始。
- ・戦前、戦後を通じて様々な路線計画を作成し大阪都心部への進出を図るも、大阪市の反対、資金問題で、ことごとく失敗した。
- ・扁額には、宿願が達成できた感慨が表現されている。
- ・この額は、当初天満橋地下トンネル入口に設置されていたが、旧天満橋駅跡にCOMMビルが建設される際に、京阪天満橋駅に移設された。

(4)輸送力増強の時代のトンネル扁額

- ・高度経済成長期に、大阪府の人口は急増。
 昭和35年 5. 5百万人 → 昭和50年 8. 3百万人(51%増)
- ・昭和40年代から郊外での宅地開発ブームが起り、郊外と都心を結ぶ路線の輸送力増強が、私鉄各社の経営課題となった。
- ・近鉄は生駒山に、南海は紀見峠に新たなトンネルの建設が必要。

⑥近鉄奈良線・新生駒トンネル

「日日新」佐伯勇(昭和39年)



(新生駒トンネル建設工事記録 より)

- ・奈良地区の住宅地開発等による人口増加で、大型車両の投入が必要になり、新生駒トンネルが建設された。
- ・昭和39年、新生駒トンネル開通時に、社長・佐伯勇が大阪側に「日日新」、奈良側に「又日日新」の額を揮毫。
- ・出典は「大学」の「苟日新 日日新 又日新」。
- ・(殷の湯王は洗面器にこの字句を彫りつけて、毎朝顔を洗う度見て自戒した)
- ・「日日新」は佐伯の座右の銘。
 佐伯は部下によくアイデアを出せと要求した。
 座席予約システム、二階建電車、おしぼりサービス、車内電話、車内トイレ等、佐伯が社長時代に、近鉄が日本で初めて導入。

⑦南海高野線・紀見トンネル

「一路貫光」川勝傳(昭和51年)



- ・昭和51年、南海高野線の紀見トンネルが複線化された時に、南海電鉄社長・川勝傳により揮毫。
- ・「一本の鉄路が貫き通った」
- ・昭和40年代から、南海電鉄は、狭山ニュータウン、美加の台、橋本林間田園都市等積極的に宅地開発し高野線の複線化が必要になり、紀見トンネルの複線化が行われた。
- ・川勝は昭和43年から昭和63年まで、最後の南海ホークスのオーナーを務め、「2シーズン制」と「指名打者制」を提唱し、リーグに導入した。

⑧近鉄けいはんな線・新生駒トンネル

「一任天機」 佐伯勇(昭和61年)



(80年のあゆみ より)



- ・近鉄けいはんな線は、沿線の人口増対応で近鉄奈良線のバイパスとして建設。
- ・昭和61年、新生駒トンネル建設時に近鉄・会長の佐伯勇が揮毫。
- ・出典は「菜根譚」の「水到渠成、瓜熟蒂落、得道者一任天機」(じっくりと機を熟すのを待つべき)
- ・「一任天機」は佐伯の経営観のひとつ。
- ・昭和34年の伊勢湾台風で名古屋線が運転不能に。この状況を逆手に利用し、長年の経営課題であった名古屋線のゲージ統一と復旧を一気にやり遂げた。「一任天機」を実践。
- ・佐伯の肩額の特徴は、自身の経営観を表現。近鉄の天皇と云われた佐伯らしい撰文。他に、近鉄大阪線新青山トンネルに「徳不孤」を揮毫している。

(5)第3セクターによる新線建設に関するトンネル扁額

- ・都心での新線建設に莫大な資金が必要になり、リスク回避から第3セクターでの建設が行われるようになった。
- ・鉄道会社、府、市、銀行、電力会社等が出資。
- ・第3セクター方式で建設された新線
 - 昭和55年設立 大阪高速鉄道(大阪モノレール)
 - 昭和63年設立 関西高速鉄道(JR東西線)
 - 平成8年設立 大阪外環状鉄道(おおさか東線)
 - 平成20年設立 中之島高速鉄道(京阪・中之島線)
 - 平成21年設立 西大阪高速鉄道(阪神・なんば線)
- ・扁額の揮毫者も電鉄会社本体の責任者とは別の人物。

⑨京阪中之島線・中之島駅

「坂陽日々新」 秋山喜久(平成20年)



(「坂陽日々新」は、トンネル扁額ではなく新線開通の記念碑)



- ・平成20年、京阪中之島線開通時に、元関経連会長で、「中之島みらい協議会」会長の秋山喜久により揮毫。
- ・「大阪は、新たな東西の客路を得て、日々新しく変貌、発展しようとしている」
- ・京阪中之島線は、中之島西部地域の開発を目的に、第三セクターの中之島高速鉄道(株)が建設、保有。

⑩阪神なんば線・西九条地下トンネル

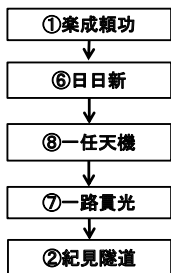
「紹復大業」 本庄義信(平成21年)



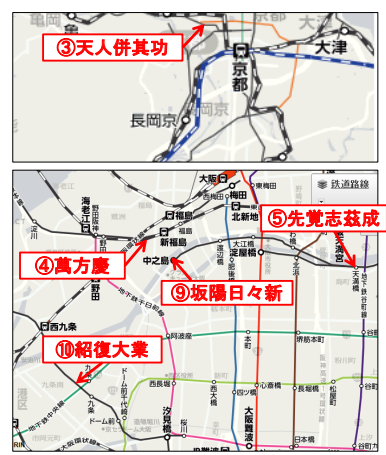
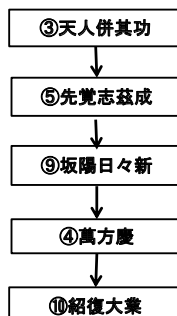
- ・平成21年に、阪神なんば線の西九条～大阪難波開通時に西大阪高速鉄道(株)社長・本庄義信により揮毫。
- ・(西九条～大阪難波間を建設し、保有する第三セクターの会社)
- ・出典は書経盤庚「紹復先王之業 庶幾四方」(前の時代から偉大な事業を継承して、世の中を安定させよう)
- ・阪神の難波進出は、戦後すぐに構想されていたが、大阪市の反対、地元商店街の反対、建設費の高騰等で着工延期。
- ・平成21年に第三セクター方式で開通。

○モデルコース

①逢坂山、生駒山、紀見峠に建設された鉄道トンネルを巡る



②都心部に建設された地下トンネルを巡る



特に、大阪市内の4つの扁額を巡るコースは1時間で巡ることが出来、お奨めです。

社会人・大学生・専門学校生等の若年層による 大阪の都市魅力の向上 その2

吉田 真治

【目的】

平成 25 年度は大学生の大阪に対する意識、どんな魅力が大阪には欠けているか、自分たちはどういうことをしたいか、という意向を調査。また、若者ととともに大阪の魅力をめぐるフィールドワークを実施してきた。

平成 26 年度の目標は、若者が自ら企画をつくり大阪のまちあるきを行うことを通じて、大阪を学び、大阪の PR につなげてもらうこと。また、そのようなムーブメントを盛り上げていくことを通じて、大阪検定受験者層の拡大、そして、ひいては大阪の「PR プロ」ともいえる上位合格者の拡大につなげていく、ことである。

【内容】

<大阪を知ろう！>

新入職員に大阪の奥深さ、まちあるきの楽しさを伝え、彼らを主体とした企画づくりを実現させる。

【結果（今後の方針）】

- ・若者（職員）を中心としたやまあるき、まちあるきの取り組みは、一定程度定着してきた。
- ・しかし、今年度目標としていた、学生を巻き込み、主体となって企画作りをしてもらうまちあるきは、十分な時間をとることができず、結局、実現に至らなかった。
- ・若者に大阪の奥深さを知ってもらい、大阪を PR し、それを大阪の元気につなげていく、そうした好循環を生み出すための活動は今後とも続けていきたいと思う。
- ・近い将来には、研究活動・実践活動を再開し、若手職員だけでなく、広く若者・学生が大阪を知り、大阪のファンになってもらえるムーブメントを広げていきたい。

【大阪を知ろう！】

新しく迎えた職員に大阪の奥深さ、まちあるきの楽しさを伝え、彼らを主体とした企画づくりを実現させる。

① 大阪を知ろう（約 300 人）

- ・将来の大阪のまちづくり、大阪のPRを担うであろう職員を対象に、大阪のあれこれについて講演
- ・クイズ形式等を取り入れながら大阪の奥深さ、面白さを伝えることによって、「大阪を知る」ことへの関心を高めた
例：大阪の人口、将来の高齢者人口、といった大阪にまつわる数字
例：大阪城は何代目？難波橋の彫刻は？
- ・また平成25年度、一緒にまちあるき、企画をしてもらった若手職員も講師になってもらい、まちあるきを企画することの楽しさを伝えてもらった



② 大阪まちあるき（約 40～70 人）

- ・講演を通じ、まちあるきに関心をもった職員が主体となり、文化課と連携して、まちあるきを企画
例：岸和田の紀州街道・だんじり見学
島本町の山崎蒸留所・水無瀬神宮
竹内街道・河内ワイン見学など



③ 大阪市内ディープ・ラン&ウォーク（約 20～70 人）

- ・大阪市内の観光・歴史等のスポットを走りながらみてまわる&ディープなエリアで宴会。
例：光の饗宴のイルミスポットめぐりラン、環状線ぐるっと一周ラン





大阪府立大学 21 世紀科学研究機構とは・・・

大阪府立大学「21 世紀科学研究機構」は、学部(学域)・研究科の枠を超えた学際的あるいは分野横断型研究を進める「21 世紀科学研究所」群で構成する研究組織で、本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として設立されました。

この機構は、柔軟性と組織性を併せ持つ 3 つの研究所群(2015 年 3 月現在 45 研究所)で構成し、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の教育・研究の展開に新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられています。

観光産業戦略研究所 (所長：橋爪紳也教授)

経済成長が顕著なアジア全域において、観光が地域の重要な産業となりつつあります。LCC の普及や世界的なクルーズ事業の進展もあり、新たな旅のありかたが示されつつあります。いっぽうで、ヘルス・ツーリズム、コミュニティ・ツーリズム、ヘリテイジ・ツーリズム、ボランティア・ツーリズム、美食ツーリズムなど、いわゆるニューツーリズムの動向も注目されています。また世界的な統合型リゾートの流行やコンベンションビジネスの発展、ハイエンド層を対象とした事業展開など、観光客の受け入れを前提とした地域づくりや都市開発が各地ですすめられています。観光産業戦略研究所では、このような世界の動向を見据えつつ「人が自由に移動する社会」を肯定、観光学の理論的研究の深化とともに、都市型観光に関する政策提案と地域づくりの実践を重ねています。

なにわなんでも大阪検定について

なにわなんでも大阪検定は、大阪が持つ歴史・文化の奥深さを再発見し、多様な大阪の魅力を知っていただくことを目的とした試験です。検定試験に関連し、歴史や文化に直接触れるまち歩きや講座などを開催し、楽しみながら大阪を学んでいただくことができます。

大阪府立大学21世紀科学研究機構大阪検定客員研究員制度は、この大阪検定の最難関である1級に合格された方の知見を大阪の都市魅力向上に役立ててもらうため、大阪府立大学との提携により平成25年度より創設され、今年度までに延べ25名の研究員が担当教官である橋爪紳也教授（大阪府立大学21世紀科学研究機構・観光産業戦略研究所所長）の助言を得ながら「大阪の観光」および「大阪の観光産業」に資する研究に取り組んでまいりました。

大阪商工会議所は、これらの研究をより広く社会に還元し、「大阪の観光」および「大阪の観光産業」の一層の魅力向上に努めてまいります。また、学校での授業や企業・団体の研修等の機会を活用し、大阪検定合格者を講師にした大阪に関する講座・セミナーの開催を支援しておりますので、講師のご紹介などご関心の方は下記問合せまでご一報ください。

大阪商工会議所は、“なにわなんでも大阪検定”を通じて、大阪を知り愛する運動を推進し、大阪の都市ブランド向上を目指します。

問合せ：大阪商工会議所地域振興部

TEL 06-6944-6323

Mail chishin@osaka.cci.or.jp

<http://www.osaka-kentei.jp/>



なにわなんでも[®]
大阪検定